和泉名所圖會

卷之一

大鳥郡

ル 4
4749
1

ARCHIVES

門 禮
號 4749
卷 1

也冠者六七人

初冬

正二位花山院大納言愛徳卿







凡例

一 此書を構ふる泉三州の内名所圖會全部を成 五畿内名所圖會

一 和泉國北極の封域世俗堺津大小路を攝泉の界やう 猶ほも反正天皇の陵高須寺の舊蹟七堂濱大小路より北之 國史ふみを和泉國とせる故ふ因て史ふ基く堺一津を此書ふ著ら

一 神社ハ延喜式神名帳ふ據く載を大慶ふ圖し小祠を 圖せず只由緒ふ異ある者ふ止

一 寺院ハ郷中村里ふ多く由緒ある者撰ぬ書し新建の淨刹 憤寺道場の類を多く記ふまねくも右の例ふ准して撰んく載と 統て百八十六箇所あり

一 和泉國ふ於く泉式部の旧蹟とて其の粗多し 新編梅 慈覺渕楊枝の清水 燒石 鉄醬壺出誕の地没卒の墟

等あり式部の丈和泉守道貞に任國して下向の時式乙を亦おくに來るもの多く紛れしも和泉國に治信用し難し一於是多くこれを除ノ

和泉名所圖會卷之壹目錄

和泉國號始　茅渟之訣
墟　名產　墟人物志

大鳥郡

開口明神社　本社　末社
海會寺幷　食堂　鳥居
如意祠　宿院　攝取祠　寶冊卷
反正天皇陵　方違祠
惣門　壯丹名格　塔頭
土州侯影
南宗寺　佛殿　方丈　千手觀音　休憩所
玉橫野　紀國橋　八幡宮　鏡池
鉾家
妙慶寺　勢至塚
荒神祠　鹽穴寺　什寶
源光寺
本成寺

墟津
墟浦
墟名畧

金堂　西門額
三層塔　瑞森　鐘樓
曽祠　馬堂
飯匙池
向泉寺　神社　昭堂　浴室　吉英景　乳守祠
仁德天皇陵　大山陵
箭塚　客殿
海會寺　門　景堂
方丈遺　休憩所　水鉢　佛向畫
大安寺
少林寺　通心祠　狐塚　銅鼓　日觀上人
引接寺
本成寺

日蓮社　本堂　祖師堂　毘沙門堂
九蓮社　佛澤上人塚
細松神廟

長谷寺　一祥雲寺　佛殿　潮浴室　潮井
五葉松　鐘樓
鐵鉢
古梅　圓光之師旧蹟　法然上人影　蓮池

占辻

極樂寺　方丈　小方丈　庫裡　茶堂
常樂寺金堂　鉤欄橋
金銅燈爐

東京願寺御坊　了賞寺　顯本寺

市軽子

天神社　本社　鳥居
讃岐堂　滝樓
和泉式部塔
微鮮魚賣

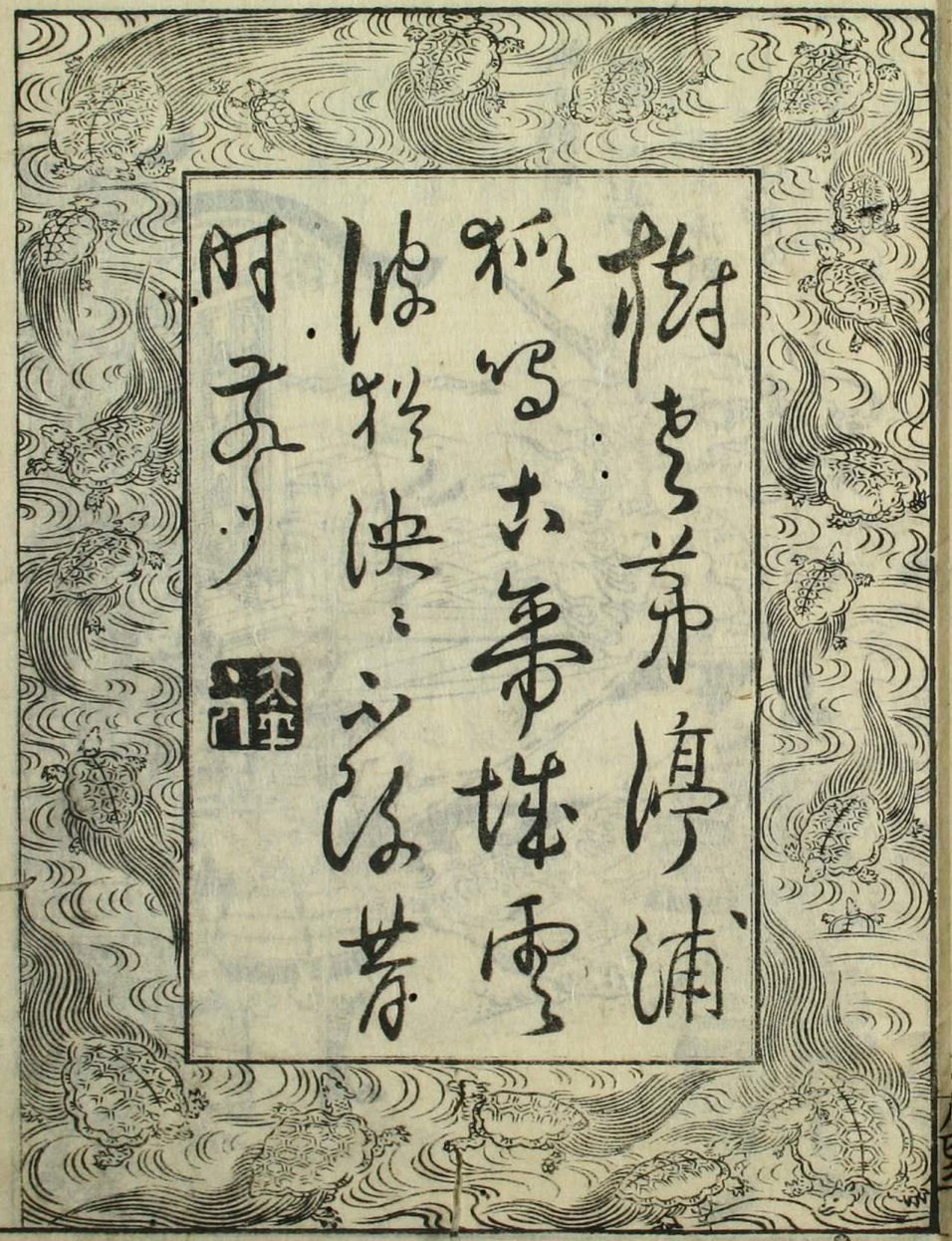
戎嶌　魚市　笑姿祠

濱藥師　毘沙門堂　西光寺

連歌所　影向松
白太夫祠　末社

拜殿
伊勢両宮
二王門

禪通寺



神功皇后
三韓ご降退治
有く場浦ご朝
しゅん盈舟の
若者一名
所収

舳松と云
山海経ご見ゆ蓬山ふ
沙棠ありて
真實を啖くい
溺ぼこれみこれ
ふく船を作る
とうたい羅国ふ
覆らば海底ふ
沉まばとも我
安くし

和泉國〈舊河内國茅渟海畔の郡内より
神功皇后新羅を征し給ふ年地中ふ波浪の聲あり
飛泉湧出る事丈餘〈て其ふかし長〈〜て味甘露の如し故ふ其地
和泉とよべり〈韓國をこぐ〜遥佑をふ
紀伊國ふ至つて沸船をうかべ
國府の清水あり此時の人咸曰徳澤上ふ昭あり〈天下清ふまもと
靈泉湧出るとなり申々所 續日本紀曰 元正天皇靈亀二年四月
河内國大鳥和泉日根三郡を割て改〈和泉國といへ 延喜式曰 本國
管郡三大鳥和泉日根といへ和名類聚鈔曰和泉郡を分て泉南郡
置今四郡と成其疆域ハ東河州の界ふ至つて西海濱ふ至つて南紀州
界ふ至て北ハ攝州界ふ至つて南北十二里東西五里許〈
茅渟ハ和泉國の歌名なり 日本紀曰 神武天皇東征〜まつて日臆駒山ふ
踰て中洲へ入んとし給ふ長髄彦衛を發ふ官軍利あらず〈して更ふ

海ふ備つ〈舟行〜給へ南の方山城の水門ふ至る皇弟五瀬命矢瘡の痛甚
より水ふ就て血を洗ふ血沼の名此ふ由て起るなり 茅渟の名旺ハ〜くハ
茅渟ハ和泉國の歌名なり 日本紀曰 神武天皇東征〜まつて日臆駒山ふ
踰て中洲へ入んとし給ふ長髄彦衛を發ふ官軍利あらず〈して更ふ
海ふ至つてハ狭泉ふ國より茅渟海茅渟の浦ふ〜
都ふ歸り給ふ
よりて號をとべし
万葉 ちぬの海ハ淀をの小松ハ名寄
ちぬのはれ汐辺の小松汐こしをみの音ふて秋風をふく 候人忠岑
堺津ハ狭泉二州の堺ふ古ハ鹽穴郷土師郷の下條ふ村邑あり
明徳年中ふ〜名氏清こゝふ城を築て家府とす〈く氏清敗滅ふ後
周防國大内義弘守護職を兼應永六年義弘戦死をそれより細川
滿元守護〜享祿年中家臣三好長慶の旗下十河存保ふて守〜
南海四國の要衝とす永祿の初根来寺の僧徒國中ふ劫略ふ大正五年
織田信長陣営を南荘ふ建〜杉井友閑をして國勢ふ司ら〜む
同十二年豊臣太閤秀吉公根来寺ふ討〜其巣穴ふ燬國害ふ

攘く營ㇾ北莊小徙ㇾ小西攝津守行長ㇾ泉州一國の政事ㇾ
司どらしむこれ政所と號に千藏石易と城
堺浦 亨祿天文の比より津
交易をる事 他境ふ比ぶ
齊紀ㇾ家 英雄の武士 諸道の
菜輙ましく 泉州の人和多く唐 船入ほしく貨
婦人の形容大概ㇾ同ㇾ 比ぶあく大り 繁昌し要津しるる 喬時
支本 夜と秋と堺のうらみれ松風ふくこそしくもろ志ること 圓曽
堺名產 櫻綢 毎年諸矣の
滿ㇾ来ってあらく 布ㇾ
着多く出ㇾ来ってくㇾ 彼
膳前魚味ひ 小縫綢 綢の
夫本 りをれさうひのうらみさくこそ綢あめるみやそうん 知家
後拾遺 そかしと心ひ綢のあるかいつこの國に志るとこ後のさらひとい不ㇾ忘けるありうた綢のあるよ
又人けるふしこ後まこの綢やあるとふひけふふしをこの人におんや、

申てるこ人に作りうれそこうけることそそれる
鉄炮 之鳥銃と書に天文年中南蠻の大砲紫ㇾ来る種子島時堯と
傳成 いふもの蠻賈の長年良叔舍喜利志佗孟をもあ人ふ遇く鉄炮ㇾ
時鉄炮の製を傳受ㇾ帰國の後多くㇾ
鉄炮と一統ㇾ
共に相ㇾ
氏綱ふ献ㇾ氏綱の長男
鉄炮ㇾ
鉄炮鍛法十九軒あり共中ふ
稜並勘左衛門 公用ㇾ勤む
白粉 小西のおしろいむし
大納言殿軌凌らしてる
金紙 元和年中唐人壱人
様ㇾ
散ㇾ
裁ㇾ
本綿 堺の辺綿
真田紐 紙打 綿
船松風 南荘 船松風
時雨 毎歳官ふ
の猫中 小用も
湊紙 湊壺鹽 共ふ尚津の
湊村 白炭
湊餅 鬼蒸餅
建て鋸ㇾ 前に小菊ㇾ

千利休の
茶道の
極意ふ
西行の
和歌の
尊さ
ゆへ
奥

夜れ
ば
苔の
庵の
さひし
き
風
より外ふ
とふ人そ
なき
西行

嬶漸つ
鳥銃
鍛治

なる武士
嬶そ
鉄炮か
買ん
と
と
ハそ
あれ
ほど
と
言ま
と
あれこそ玉あれ
立ち玉お仕と答へ
なほわれ直へ
なほと
者へポンとぞ
と

津古来名誉の人物を撰んでこゝに載をく

○牡丹花 扶桑隠逸傳曰 奥平親王の遠孫なり平塵俗氏世く肖柏と號し

又自牡丹花・補ひ人咸これを呼ぶ春く書を読和歌を詠じ業を遂ぬる

暮し自然齋宗祇に從ひ又常に五畝に遊んく詩を作法を學ぶ

必牛に騎其外・角巾漉塗く今を逸とされ觀者怪笑ふも自若たり

老に至りて夢菴といふ長松茂樹簷外環し

又四時の花を以て次第に栽ゑうえ其軒を榜じて壽花と号し

酒を好こ書を愛し花を傳こ愛して自記を作る永正七年の秋

帝都爰に牡丹花を愛ふ勘藤公實隆に命じて便殿に召見く親

唱和せしく 帝甚悦ばせ給ふ僕幽栖に帰く野服葛巾鰒を咏

して樂しむ厥后攝の亂を避く房州泉南に徙り遂に大永七年

四月卒に臨を南宗寺に葬をく年八十五

さこ川のたゝちの宗社沸ゆ水先皇の沸代沸ま事のみ哀

ふみ發句に肖柏法師中こ花見んこゝろにて

あつまり南代の紅葉ふりしく發句ふして南庭ふ中へし

事のみ同一風情成おりひめこゝ侍る中

あ一引のこゝをた月をそ見ふをたく月のみこゝろた来の秋

いこ事のみ哀ふ侍ゆ其のち肖柏をめし

發句をふくりく如玉しれ 肖柏 御製

脇 庭ふをたゝみこん世やいくよ秋の月

誠に肖柏曽く牡丹の妙句あり藤實隆公こ稱に肖柏閣よ有く

津の下田屋宗柳葬礼の時宗祇其ま家風一吐聲

連歌の門弟多し訴訟ある時宗訓の新しき事あり

瀧邊は雨

山水の激れたゝくそゝろにて

金光寺覚ぬ夢の訴ふく

枯野風

青丘ふる友ぬくをもを下萩にあらの如れ秋ぬくの如れ秋ぬくの如れ

肖柏

肖柏

○紹鷗 一説居士又大黒屋と号に堺津南荘舳松村に住に茶道の達人
なり都鄙宗匠と仰ぐ崇敬せり初武田国幡守仲村と名乗
則武田信当の裔孫なり祖父仲清応仁の亂に討死し父信久に離れ
孤と成四方に周流し或は都四條室子堂の隣家に幽棲して大黒屋と
稱し薙髪して一閑居士と号す防州大内義弘在京の時々伺候し
又西三條遍遥院殿に周く歌道を学び其源を感じ給ひて右令の
口傳を授申其比五條松原町に南都の珠光の女子宗陳宗悦と云人
数寄の者あり紹鷗つゐに新に至り茶道を修練し暫く舘し弥
数寄とし其の名隠れなし秋の紅葉に鹿の吟を聞て園畑に行ふことそうて疲労を楽み或は
紫野大林和尚を請して深法に深参し弘治元年乙卯十月廿九日辛酉に
紹鷗の号を宗及と改む武野安斎と号に幼年より朝夕紹鷗の
深庵和尚の仲綱に随侍せられなる

○小西如清 初彌十郎 累世摂津
おゐて天正年中秀吉公播州に住く薬種を賣富有屋敷に
の中間小宇春田直家あり備前の國宇喜多
良娘とし小西直家に
あり御遣も信長公へ一味し共に毛利を退治しのち美作一國を
加恩に申受ると張儀が辨古を振ひ直家昇進同名
秀吉公兵功を賞して領地一千石を賜ふ
○小西攝津守行長如清が長男
の後領地を肥後國に賜く宇土城主
既将として不日に攻城を敗り鮮人を鏖に大小武名を三韓乃
大明國に振ふ事ハ朝鮮征伐記に詳なり當我朝の書ふ筆をもつのふ
此に明書懲毖録ふも委く載ら慶長五年石田三成が反逆
堂々く滅亡に




魚
魚

一休和尚の堺の
高須小そ遊女・
地獄といかを
よんであそび
戯れ酒呉の
うへそ
王衆四諦無非道
と飛ひかゝれ
万法千門只妙心
と句を継共ふ
うたもれ
たるもれ
ろ





○千利休　初名与四郎後十ノ字号又抛筌斎ニ六人ノ数ノ内ニ堺ノ町人ノ内ニ堺ノ町人ノ
先祖ハ代々田舎ニ住ス十七家ノ内ニ堺ノ町人ノ茶道ニ仏法ノ道陳ニ従ヒテ名ヲ
得ル道陳ハ紹鷗ニ紹鷗ハ珠光ニ珠光ハ村田珠光ニ茶道ノ奥ヲ伝ヘ
籠ニ時々来リケル数寄ノ道具悪ク雑談モ麁ク閑ナリト
語リテ紹鷗茶ヲ点テ呑セ候ヒケル後ニ利休ヲ呼ヒ寄テ
利休天下ニ名高ク世人ノ崇敬スルニ利休ハ日ニ増ス紹
鷗ノ教ノ通リニハ家建ノ歌ニ
　花ヲノミ待ラン人ニ山里ノ雪間ノ草ノ春ヲ見セヨヤ
山古斎ヲ召ト茶道ノ仕様ヲ宣ヒケル又利休法躰ニテ紹鷗
改ニ清浄ニ侍ル其頃ノ事ニテ聚居太閤秀吉公ヨリ利休居士ト
賜ハリ若干ノ領地ヲ与ヲ事ヲ意ニモ介ニ閑居
随適ノ心ヲ深ク利休ノ茶頭和尚ノ号ヲ
けかうしおりとそのころ世にもてはやされ世にもてはやされ

其後讒言ノ事アリテ終ニ滅ス
○鼠楼栗新左衛門ハ堺津南荘ニ町ニ居住シテ刀鞘師之細工ニ名誉ニ
深ク刀ノ鞘ニ口ヲロリト能合ヒ小世人異名セリ其上ニ好ク智識ノ上ヨ
ク秀吉公ヲ召出サレ多ク御伽衆中ニ入ル詩歌モ携ハリ
ある時関白秀次公ノ御茶ニ伺候ノ時ムシロノ布ニ小山ノ姿ノ時普陀洛寺
の庭ニ飾セヒヒ士峯ト云ヒ銘ノ盆石ニ有ル人献ヒ給ヒシ時ノ
詩ニ賦シテ曰
　千里飛来入座間　自今何用在東關
　不知山魄化成石　士嶺無端拈出看
指サレテハ驚ヒヒ給ヒシ
朝鮮征伐ノ時一波海連日ノ荒ヲ石ニ祈ル事ヲ
秀吉ノ云ク石ニ祈ル事ヲ
嵐楠栗新左衛門ニ石ニ祈ル事ヲ
下サレ仰ニ半ハモヤ〳〵ト私ムコロニ
御威勢ニテ二十世界ヲ小入ルコトヲ
極楽浄土ニ入ル賜ヒヒ

○瑞溪和尚　諱ハ周鳳　泉南堺津ノ人ニ臥雲山人ト號シ又北禪ト
稱ス僧録司ヨリ善隣國琯記ヲ撰ンデ世ニ行ハル
○二好存保ハ十河民部大輔一存ノ子ニ好長慶ノ命ニ隨ヒ堺ニ住
シテ和泉ノ國ノ政事ヲ執行ヒ其後加賀瑞ノ
城ニ居シテ長曾我部宮内少輔元親ト戰ヒ又秀吉公ノ命ニ
隨ヒ豊後國ヘ滿ニ赴キ遂ニ天正十二年十二月十二日討死ス　年二十二
○喜多七大夫長能　幼名八之丞　當津市町中濱ノ產ニ北莊嶽町ニ住居ス
父ハ頗慶トイヘル醫師ニシテ長能ノ兄ハ萬之丞トイヘル七ヲ夫ノ幼年
ヨリ當ノ勅太夫トイヘル能師ノ弟子ト成舞曲ノ妙ヲ得ラレ
ヨリ此流大ニ行ハル孫等今ニ七大夫豊臣秀頼公ニ召仕
ハレ遂ニ大坂一乱ニ討死ス
○車屋道説ハ原今春ヲ筆ヲ筆ヲ
ヨリ一流ノ唱句ヲ撰ビ自筆シテ彫刻シ世ニ弘メシヲ車屋本トイヘル

えハ七十五番ヨリ成ル百番ノ謡曲本トナル
○土佐久翌ハ叡繪ノ上手ニシテ大正年中ノ人ニ其名源左衛門トイヘル
舍弟土佐將監光起ハ寛永年中ヨリ京都ニ住ス
○沅南江諱ハ宗沅字ハ南江濃州ノ人ニシテ洛陽相國寺雲溪和尚ノ上足ニ
シテ永享四年堺南莊葬原ノ海濱ニ茶庵ヲ結ビ自無菴ト号ス
或時一休和尚ニ謁シテ猶ホ無佛性ノ話ヲ問ヒ機ノ頌ヲ作ル
妾是多情郎薄情　長門春雨釀愁成
銀屏宛轉還飛散　不有無啼鳥聲
一休和尚これを聞ク莫笑ニ寛正四年夏寂ス　年七十七
○木戸作右衛門ハ小西行長ノ家士ニシテ朝鮮國ニ於テ武功アリ後主殺頭ス又古田織部ノ命ニ依テ切腹ス
○南化ハ茶杓細工ノ名人ニ利休ヨリ傳授ス又古田織部ノ命ニ依テ切腹ス
世ニ和ラ庵時々將軍家ヘ參ル孫今ニ南竹ト名乗ル

豊太閤の御伽
嵐呂利新左衛門
滑稽の一ふし

晏子曰齊王淳于髡
をして趙に使之て救兵
請しむ金千斤車馬
十駟あり淳于髡
天を仰くて大に笑ふ
冠纓絶ぬ故ふ
若へ金千鎰白璧
十雙車馬百駟を
益けるこ

○連歌師宗椿が牡丹花の門弟之歌の道ふ志深く逍遥院殿ふも時々謁
參しつゝ源氏抔浩成書寫しつゝ世ふ被もてなす事二十餘年遂ふ世ふ
聞へし事病ふ罹りて今般除去でいの抔浩成書けるが朝顔花にいとゝく
沒しつゝ此世界ふひろゞ

茶ふそめこゝろふけしもさへ朝白の露　牡丹花

○今井宗久が堺津の人々永禄八年茶器成平信長ふ献じ天正六年又
茶成献じ信長記同十二年秀吉公洛の抔ふ催ふ堺津
茶道家の珠器成在間ふ置しむ宗久が秘藏の茶具四番とある其子
宗薫相續く茶道を善ふするのこゝろあらゞ
財ふ臨く同志弟あり故ふ前領主二百石成賜人

○松井友閑法下ふ信長の執史ふして
信長濃州ふり上洛あり京都堺津ふ於く名物の茶器成上覧
あるべしとて此法下と丹羽久右衛門尉長秀とゐ人ふ仰付られ
されと奉行ふて信長記又高野山ふ武士二千人遣されくる時ふ此法下ふ
其魁将成命ぜられ

○乳守植女　南荘乳守里ふ南津の領城郭ふくゐふ酣歌の聲舞曲ふ
あそぶ人ふ於の暇ふ遠山の眉艶しく月の夕ふ蘭麝の如り濃ふ
して一笑千金悪ふくゞもむしろふ侍女ふ遺風今ふ
あり毎歳六月廿八日侍女神田の神事ふ此地の侍女六人落衣の
衣裳着くゐ花笠みやびやふ袖ふさ神前ふ歩くゐふ武を勒むこと成
侍女神田の植女といふ　此乳守里ふ神武の早乙女の跡ふ
しく此の侍女ふ異
ある志るし

植女

○岐翁ふ一休和尚の肖子ふある時師命ふ背ふ擯出せられ南津の市町ふ住
筋ふ住ふく集ふ居ふ号成其後一路居士と宗祇法師ふ成憑ふく師の勧ふ成
免されて一休志らばや太刀持ふてとゝ人ふ一休の肖像の傍ふ立

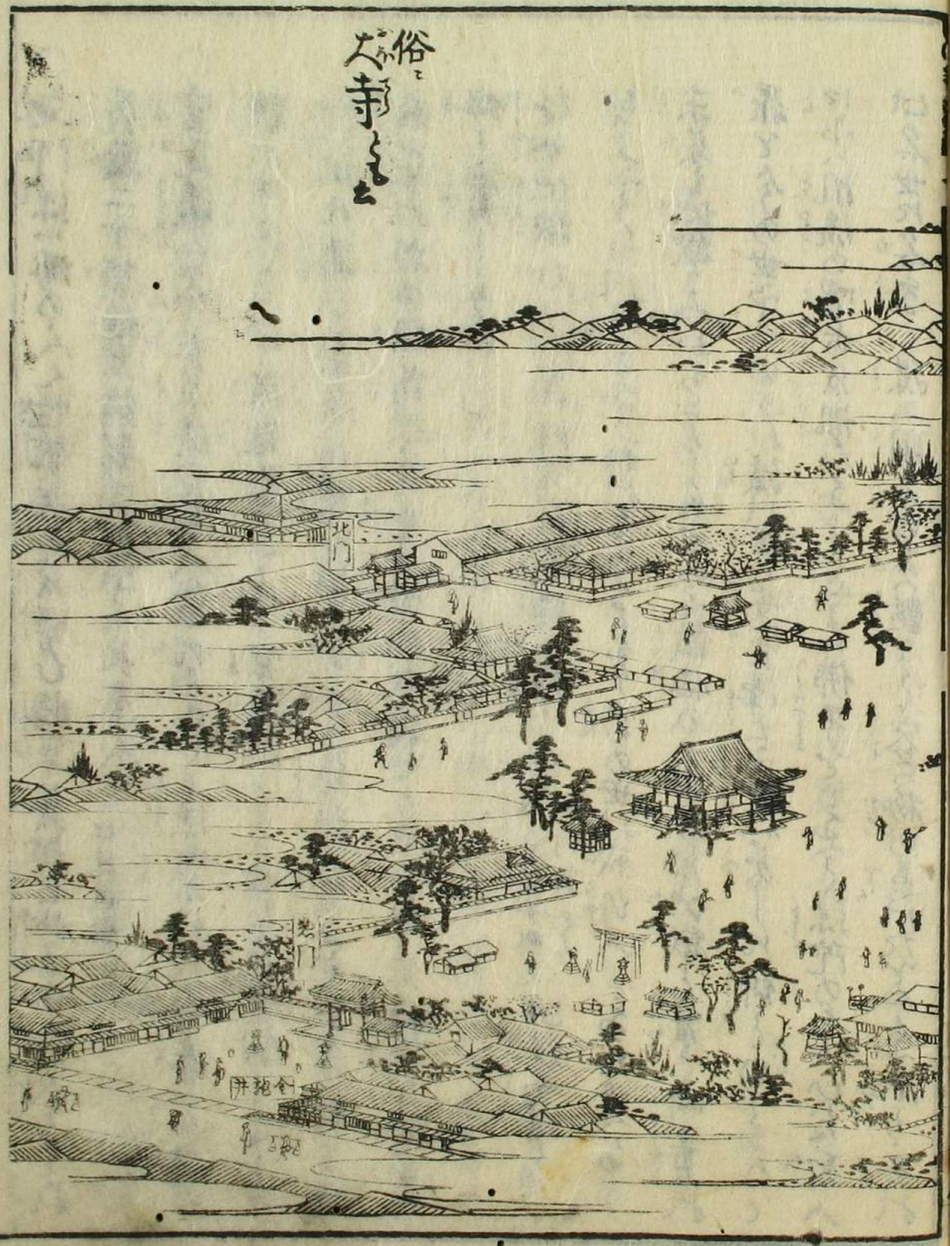
班竹

持ち氏岐翁と家波瀾公勅さに深心鉄石の名僧と其後南宗寺へ居ル
徒し今ふ集雲菴開基とそる〳〵
○松山新助ハ堺津の人と永禄年中三好家ふ在く仇牙の士太閤記
其始ハ本願寺の番士ふくめ〳〵ふ上ふ敵尺八平歌の芸熟ふも達し高家貴人へ出入
裁判諦あり其上ふ敵尺八平歌の芸熟ふも達し高家貴人へ出入
置酒して興ふ催ふ酒もそれで対陣ふも乃ち〳〵ふ新助ふ雑古ふく
和ふ布々れを活もし事も多〳〵
○意云ハ後土御門帝の時ハ人ふ
可竹と號し又皓隠ともいふ
○僧泉南ハ堺津高家の産ふ真言律宗ふ能し若後京師梅ふ居
多年師寺ふ住し〳〵ふ跡ふ寺ふ祝枝ふ仏ふり世ふ業績多し
延享明和ハ年巳丑二月朔日寂ふ
○堺舜慶ハ堺津ふ救代居住の人ふ尾州ふ赴き頼戸ふ於く茶器ふ
製し又伊勢ふ於くも製ふ仰れも堺舜慶と呼ぶ子孫利休居士の
代まで堺ふ居住し〳〵
○道陳ハ堺津舳松町北向と云ふ所の産ふ救寿の道ふ親心せうまし
初ハ洛陽東山銀閣寺ふ慈照院義政公ふ〳〵ふ仕ふ茶道ふ能阿弥
相阿弥と云ふ二人ふり能阿弥老後堺津ふ移ふ空海と名ふ改け法
世人これをまふく弘法大師と同名と罪せふ空海皆て世ふ釋迦院
阿弥陀寺と云ふ人ふ弘法の名ふ憚ふ弘法ふ名ふ改ふ
ふ寝食ふ同〳〵ふ居歯の交ふふし〳〵道陳ハ老人と
ある道陳ふ家ハ元来富有ふし〳〵財寶殊ふ畠田畠ふ〳〵ふ持〳〵
紹鷗と心ふ合ふ南宗寺ふ再興せり
○高二隆達ハ元日蓮宗の僧ふ堺津顕本寺ふ住ふ故ふり還俗し
る二氏の家ふく薬種ふ賈ふ年ふ経て小歌節ふ一流ふ創ふ出し〳〵
世人隆達流と〳〵其頃大ふ流ふ

三村社



俗大寺



○処刑場の人々性質悪敷事

死論二十箇條を編輯せしむ 江源武鑑

○宮尾道三の今春及蓮の家人共北小路に来り上源町に住して今春家傳の

謡ひ中ごろより宮尾流とて世に用ゐられのこるあり

利休に随ひ茶道を嗜む 此女町人の女ゆゑ卑利休の家にある時

經繋ぎ粗の持扱ひを怨に燈心を持せるこれ後世に家の

好と賞ず

○柱女地獄むかし南津北荘高須に住す 今も柱女町と云 十軒許あり

おのおの川岸のおのおの男となる事共の世は戒りつつしみあり

未来も地獄ゆゑおちざるやうせよ

罪を今の世ふくのうし後世安養浄土ゆきうまれ佛と成んこと

疑ひ無流の唱ふる所なり 禅院のちひ法師

此名世に名高く殊に國色の美艶ふくよかに肌をおし

匂ひ遠近に聞えたれど一休和尚もてふかき柱女を見ゆひて

さてもおそろしき女かな

おそろの鬼すまじ

一休

柱女地獄

一休和尚これをゆゑび真に此柱女ごとき美四諦の道を通ぞよき

礼をなして去ぬ

○高須の柱女町小名

○恵藤源左衛門小横笛の上手ふかく北荘矢蔵下町に住して其頃常楽寺の

成就坊が什寶ふ名笛のあり一曽といふ者の教ゆゑ求得しが後中村傍中入道

此笛成就坊より金堂小郷者へ常楽寺ふかく約ありし時

これを辺衛殿より笛の記を書せられ銘を尾落ると跡ゆゑ此名笛

恵藤が子孫藤田清左衛門譲と受 尾張大納言義直卿の御扶持

人となりけるよし聞へし

○舞入一休といへる和尚住吉牀菜菴に住る時堺津甲斐町中濱扇屋甚右衛門といへる者の許へ来入一休を慕ひ家貧しく
第多くこれを憐み扇の地紙を多く取らせ烏の絵を書
入これを賞翫し貴者名人となれり
又狂歌の画をも善やし世人これを
賞味し徳つく大福長者と成ふたり俗説に一休和尚か扇屋う許へ
入舞しるとこれを見て狂歌
あるものこれをうたひ舞入か扇にうつしとゝ
一休うまこゝろもさく舞入か扇にうつしとゝ
○一節道清か歌の胴か制作く者入塗胴か鳴者とゝく来比を用ゐ世人
氏と銘ふ此て一節胴と称賞じ
○松井宗閑か代を寄津小役して醫師を業とせる又香道ふも心得うけく
古今伝授もしくは初か興次帝と号しお代ふか和氣氏とて
後醍醐帝の御時射術を以く恃名人射落ふれは御脳平癒し其化名の
落る所井の辺ふして松籬ありしより和氣か改く松井と氏を賜へ故所

ふに破籬を用ゐ
○碁利玄か日蓮宗の僧徒にして碁の上ふも南荘漆村の海濱に菴ふ
むそんく住に寛永のころふ専碁
○中象碁温故か北荘妙國寺の境地法林坊ふ住して日蓮宗の僧侶ふり
好く中将碁ふ名ふ成は 後水尾法皇温故を召く法橋宗和と勝
負ふ次に温故両回勝を得うり
○宍飛屋某か娘の人之元亀年中土佐守長曽我部元親宍飛屋を以て
志ふ信長ふ通ひ竟ふ信長の幕下に属ふ
○九思右馬頭嘉隆か信長の命ふ依つて天正年中堺津ふ在く兵船
数多を営造 信長記
○鉢飯治宗鐵といへる己崩か甲の鉢飯治の上ふ千利休ふたとり専
数寄屋の鐵物細工を仕くる名人の譽ある

豊太閤様の
名器を集させられ
小野大茶湯のはし
めとうせられ
今井宗久が拝領
茶杓書とある
とぞ聞へ〳〵

諸名器

当津小古来より天下の名器多く伝れども世遠く雖去年代記録有とそ伝りのもあり又子孫不伝其品器の大概かように記そのこと

○元亀元年に月翁日信長公濃州岐阜より上洛の節小河に名物の器物多く伝来有由聞及御所持の茶器共御見あるべしとて松井友閑を以て被仰遣候へ共御用ゐなく悉く持参せらる茶等もなく都鄙の貴賤是を感賞し洛陽北野大茶湯の時当津より多く茶器を持参しける処秀吉公の御賞翫切々にて諸人の羨ける程の名物なりけり

○天正十二年秀吉公の命により洛陽より多く茶器を持参しける処秀吉公の御賞翫切々にて諸人の羨ける程の名物なりけり

○菓子繪　天王寺屋宗及

○小松嶌　薬師院

○柑子口　油屋常祐

○永禄八年信長公へ献上の茶器

○菓子繪　紹鷗

○松嶋茶壺　今井宗久

○烏丸香爐

○尻膨

○菓二番　千利休　賜二千石

○鳳繪

○攻紐釜

○捨子

○猶柴

○銅編

○塗天目

○菓三番　天王寺屋宗及　賜二千石

○高麗茶碗

○竹蓋置

○折撓茶杓

○入道蜘釜

○峭壺水瓢

○菓二番

○枯木

○撫子

○初花

○尼子天目

○高麗茶碗

○入道蜘釜

○折撓茶杓

○竹蓋置

（一菓四番　納屋宗久　賜二千石）

○月繪

○松花

○祖母口釜

○信貴の伺衡

○頭巾茶碗

○竹蓋置

○二嶋茶碗

○折撓茶杓

此時秀吉公御手茶より国主の諸侯方へ御茶被賜る

○於当津被古来名物茶器之類

△千宗易　利休居士

○惜張釜

○鶴一聲花生

○香爐　已上二好宗二手

○二好實休宮衡

△天王寺屋宗及　清和尚の父也

○文琳茶入

○天目

○布袋肩衝

○舩子繪　筆ハ牧溪瀬ハ虚堂

○鶺丸繪　梁楷筆

○筒無花生

○宮王釜

○志野茶碗 志野宗哲の初おこし人 春道の宗匠ごくれん流の祖
○不破香爐 巳蒸ハ烏丸殿御所おこし
△萬代屋道安 ○投頭巾茶入 ある人此茶入ハ珠光の方へ見せられしがお茶頭中故哉おがら忍らぼ多くの褒美のおこりに頭巾と投られけるゆゑ名とりぬ此壺小筵目四つめり恭業濃飴色あり向ふ一つ小ふ一つみその茶あり恭
○九重壺 此壺自柿ぐ七行筋入初ハ珠光にありしが後ハ紹鷗所持おこし
めうかとり入 古おふて名とれり ○筒 ○竹茶碗 初ハ宗徳の
△茜屋吉松 ○木野多肩衝 ○弦付茶入 ○牧溪鶏画 ○数江茶碗
○寅申壺 寅申の日ハ天王寺の市ゆゑ名とれり六行八つ入ぐ初ハ本座宗鑑の所持
△笠原宗意 ○肩衝 四行ふ行目この肩衝ハ宗和名とれり
△小西道純 ○駅路茶入 ○肩衝 ○内赤盆
△鹽屋宗悦 ○末松ノ石 上下一寸八分横五寸二分お後二寸九分半ありて黒白の二色文ハ末松ノ石と名とれり
○象潟 茶茶壺ノ此壺に瘤十五あり松浦ハ名とれり 象潟ハ名所
松しまやそしまの浦ハさもさらぬ象潟の月

○灰被天目 ○水仙花繪 ○醋色合子 ○小野肩衝 初ハ尼崎屋道勝所持あり
○肩衝 初ハ尼崎屋宗向所持あり
△油屋常祐 ○細川晴元天目
○餅筆置水指 ○墓 二七之内ノ
△小嶌屋道察 ○客来一味 唐画の名筆
○時雨壺 ○船 初ハ宗祐所持
△臙脂屋宗陽 ○肩衝 新田ふ船ノ画ハ白茶ノ
△茜屋宗佐 ○鶴頸茶入
○柿茶入 初ハ小嶌屋宗佐所持あり
△淡路屋宗和 ○夕陽画
△今井宗久 ○浪繪
○志野茶碗 原唐焼と云
○臺 七ツ内 ○紹鷗天目 ○虚堂ノ字
○鍋釜 初ハ珠光所持 ○林哲釜 ○宗徳作茶杓
○芋頭水指 初ハ紹鷗所持
△太鼓茶入 ○餅筆茶入 ○赤松則祐肩衝
○臺 七ツ内 ○紹鷗天目 ○虚堂ノ字
○鍋釜 初ハ珠光所持 ○林哲釜 ○宗徳作茶杓
○閑山五徳

△今井宗春　○虫繪　○飯銅　○内赤盃
△絞干屋道琳　○淺見天目 拌鎖　○馮海粟画
△伊勢屋道滴　○圓坐肩衝　○唐茶碗　○肩衝
　○瘦馬繪 小軸　○墓 數の内
△太子屋宗宁　○牧溪大根繪
△小嶌屋　○肩衝　○乾子花瓶
△藥師院　○啓衝　○飯銅　○子昂硯　○天目
○筆宝文琳
△石橋良叱　○串柿崔繪　○釣瓶　○坂東屋筒 初ハ除五選於所持ありり
○猶牛花生
△松江隆仙　○觀物初墨跡　○瘦馬繪 李安忠筆 初ハ伊勢ニ在道滴所持
△了無　○崔繪　○深山茶壺　○黄天目
△石津屋宗嬰
△錢屋宗納　○無準文字　○須弥釜　○簞笥
○貝畫繪　○王碩夕照画 八幅の内ニ初ハ津安所持ス
△重宗甫　○虚堂之字　○千稍茶入壺　○内赤盃　○飯銅
○圓悟文字
△武野宗瓦　○小茄子　○漁文硯　○象牙茶杓
△正通　○牧溪摩膜布袋　○稍繪 月山の筆初ハ納屋宗和所持ス
○翁天目　○蒲公英繪 拜領

悉如前

大鳥郡

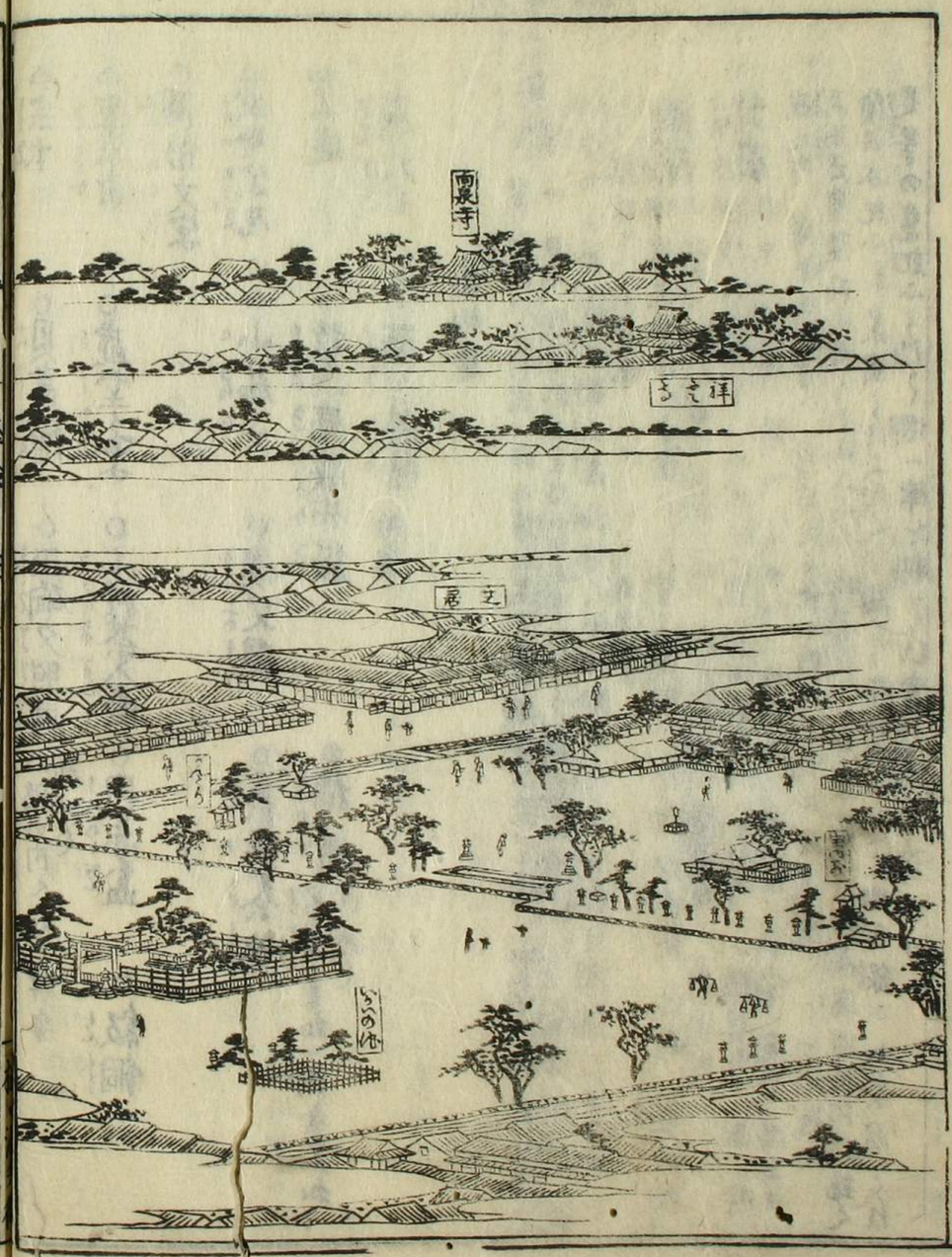
東ハ泊州八上丹南二郡の堺に至て西ハ海濱小至て南ハ和泉の郡界に至て小ハ攝州住吉郡小至ハ昔白鳳天皇より讃岐ふ今の八ケ岳に至て御領の内ニ入淺改ク大鳥郡と号ク 大鳥社旧記

昔ハ陸穴郷之 南ノ町 甲斐町 大町 菊院町 旅籠町 南ノ半町 中之町 寺地町 小林ある町 北荘 陽津大小路より小路ふり小路ふり 小半町 旅籠町 猶ノ町 後町 錦町 柳ノ町 九軒町 神明町 宿屋町 桟本町 車町 梅屋町 或之町 湯屋町 等ハ 或ハ曰大小路を限ッて北ハ陽津園へ至ル 或ハ曰天正天皇陵大小路より小ふあり 続日本紀ふ和泉園ふれ泉園ふれ又雄氏録ふ和泉園ふれ 延喜式ふ和泉園ふれ 是等の書記ふふりて陽一津を郡ふて書れ者をのふり

六月晦日
住吉御旅所ノ

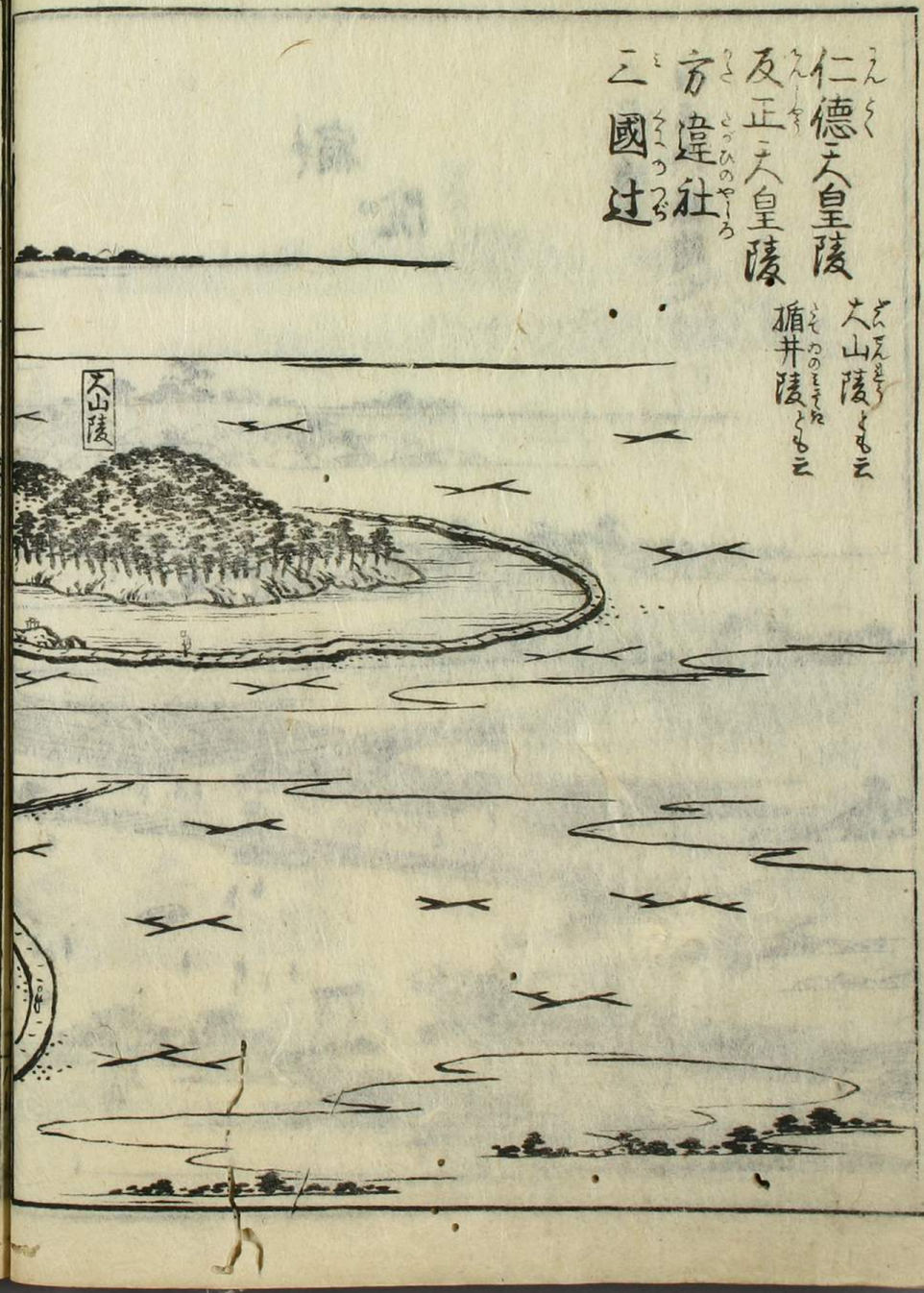
宿院





仁徳天皇陵　大山陵とも云
反正天皇陵　百舌鳥耳原陵とも云
方違社
三國辻





開口大明神社　南荘町の東ふあり　御鎮座伝密乗と念仏寺といふ
又之村明神とも号ふ
真言の霊場ありいふ　祭神事勝食勝國長捷命　延喜式神名帳ふ載ス
住吉旧記云　開口明神ハ伊弉諾尊の沖ノ事勝含勝國長捷ノ命ノ後ナリ
生玉神并額天王ふ侯ふく住吉外宮と稱ス故ふ朝廷より廿年ふ一般住吉の
沖社造替毎ふ南社も造改ある當境奮ふ鹽穴の郷内開口村本戸村東村ハ
開ス故ふ之村明神と号ス開口ハ此地の四名ふ本戸。東ハ今大小路の西あるふく田畑となる　神功皇后韓國ふ
征一のとき沖凱陣の時軍船九艘ふ浦に着ふる事ふ後世九艘小路と称ひ
沖ふの舳を杜ふ繋ふふる舳杜と云ふく明神皇后と共ふこゝに於ふく
沖今ふ進めまふらふ開口の名あり狭の園ふふ
開口務園といふハ此縁之両郎光ふ和げ利益の塵ふ同うしてひさく
念仏ふと號をふく聖武帝の沖額ふして仍基傍正開基ふて二尊来
代々の勅額所として倫旨院宣将軍家の々書数くあり
末社　矢天社　天満宮　金比羅社　外宮大神宮　内宮ふ神宮
孤子社　大宝天　稲荷社　船玉社　荒神社　秋葉権現

金堂　中央薬師如来左釋迦右弥陀四光二神将を安ス明暦元年の建立ふく
二基の塔婆　右ふ湯尉宇尚の再営ふ係ふ長谷川　食堂　安置ス
鳥居　石柱二村大明神の額ハ竹内良尚法親王の沖筆　西門額　密乗と書ふ
瑞森　當境良の方ふあり瑞森大明神ハ素盞烏尊之　今ハ地ふ堂を建ふく
薬師如来ふ安ス相傳フ弘沖ハ井ありくいふ〳〵へ
結界の地大寺の秘所ふく諺云　天狗ふ
原ふ盛裏記ふ曰　楠ふ
慢心ふ起ス　右帝ふ
もるりのあり大慢心ふ起ス　賊ふ
南寺の封境方ふ町許ふて　衆徒六坊西庄二坊あり常ふ僧人
開断ふく神の沖ふ祈ふく　賈人の小店櫓ふ列ふく軍書數の
口柏子採芝居哥舞妓狂言の二弦ふ鼓の声ゆ〳〵ふく當ハ
繋ふの家一ふ世俗ふく住吉の奥院と稱ふる謬ふん

海會寺井　大寺西門の前ふあり石標ふ曰　海會寺　金龍井　相傳フ
ふく乾峯和尚ふ曰　稽古ふ建ふく　龍神
ふ名ふく試ふ地上ふ鞭ふて　初ノふ井を掘ふ　神
開ふく清泉を得ふく　和尚ふ言ふく　井の清泉
遊人文集ふ曰　海會寺之龍井者泉南第一の名泉也云云　ふ
海會ふる今ハ埋ふ境内ふあり

小西攝津守へ豊太閤の恩顧の士より朝鮮征伐の魁将として異國ふ於て武名を輝し肥後半土の城をたまわり石田ふ組して亡びられる本意あらざる事





宮院大寺の南 [illegible]町ふあり 播州住吉大明神の御旅所 方二町の地みづゝ廻りを
大名屋をゝく東少名就園としてくさに二祠あり北分職取も分
寶御前として一園のおふ朱の鳥居あり毎年六月晦日荒和
の御祓少ゝ神輿そこにあつゝく禊祀を修しゝゝ
手三集
みな月のゝ祓さうひふみをかてちとせ分のうる神の宮人 家隆
六帖
みな月のなこしの祓するおほぬさふのゝ聲の夕ゆふ 摂津信房
家集
をみなへしのなこしの祓うら秋のゝ露をかつゝ 曽祢好忠
文応
老ゝ秋なこしの祓をうみちかつゝ秋のゝやそうゝ 為家
千五百番
六月のなこしの祓ゝそゝみそもゝそ秋の下風 季経
文永
みな月のなこしの祓ゝれやゝれいくかもちん 資時

後京極殿説曰名就社非名所

飯匙沈 宮院ふあり池の形飯匙ふ加ゝる少ゝ名ゝゝ 地神四代 彦火出見尊ゝ塩津彼の村の明神
功ふゝ向ゝく海幸ふ至ゝ豊玉妃ゝ契をむすびゝく干珠満珠ゝ
ゝ舞ゝ給ふ故ゝ海幸ゝり還ゝて干珠ゝ宮院ゝ地ふ蔵め満珠ゝ
住吉の玉出嶌に蔵めゝゝ南ゝ陽ゝ
北ゝ法ゝく満珠ゝ玉出嶌ふ納メ九月廿日ゝ神輿ゝ
ゝゝしめゝゝゝ六月九月ゝ法陽の御祓とゝ 或説曰干満の二珠ゝ紀州日前宮ふ蔵む

曽社馬堂 宮院ふあり俗傳云住吉神ゝ韓ゝ還給あゝゝゝに還り曽ゝ
又曰肥前国佐賀郡河上宮ふ蔵むる地ゝ曽社ゝいひ中ゝゝ八幡ゝ神功皇后右ゝ玉敏堀
宇佐御託宣ふ曰雙槻ゝ八幡宮ふ在しと云ゝ
納風絲中ふ社を営む同地ゝ雛様小絡にあり後世ゝゝに移ゝ又
跡を繋ぐ所を馬ゝ堂ゝ崇むゝ地ゝ雛様小絡にあり後世ゝゝに移ゝ又
後世ゝゝにゝりを或ゝ曰本地佛に茶師ゝ朱を安置ゝ蘭ゝの馬備号
ゝ堂に雛り寄合所ゝゝゝゝ馬ゝ堂の茶師ゝ朱ゝ名づく

如意明神社 市ゝ町の東宝蔵菴の門ふあり住吉明記曰如意明神
意のごとくあり世人ゝ信ゝ海幸に入干満ゝ宝珠ゝ分ゝ
神号あるゝゝゝ海幸出見尊ゝ分ゝ
の神ゝも住吉の領地ゝり 或ゝ社地も社ゝ
住吉の領地ゝり
耳袋寺頼長卿記云 文明十五年二月廿九日二村あゝびふ子ゝ
御祓等に参給ゝ云云 逍遥院記云 廿八日おゝゝゝ招請あり

しそまりむひく大師の御作也弁財天をとおつそうくうん
ゆうちうきさの風景ふ入くタはけく帰るほどふ惜也涙ふ足
めぐりく光明院ふ出そしく云云 宝蔵巷ふ阿弥陀時と号た
塩風呂あるべし 光明院 迫さるの風呂ハ今の旭連社の
共た次下ふ見へたり
方違明神社 扨泉の堺の北向井領ふあり名所の額方違大明神と書れ
末社ふハ八幡宮あり此内ふ
三國山向泉寺 市之町の東ふあり神功皇后三韓征伐の時天神地祇
真言宗
二十七百五十餘年勤済し就中住吉の御神ふ懇将そしくやそくと
退討し御凱陣ふ山津の地字の浦ふ着岸し五月晦日葬礼業平
頓てはて方違の榜ふみひて後今の住吉ふ鎮座ふなりたまふ
々る後世方崇の災ふ除うんら有た此地ふ神霊ふそめ方違社とそなる
世人家土蔵を建る時或ハ但屋ふ遇る来り方違の神符
葬の象礼物ふ受る事ふ此社御ふ縁そう厥后天平年中行基
僧正三國山の地ふ精舎ふ設そまと鞍作の師をしてみ丈観音の像ふ

作らしめ安置ふ今の本尊是之其外講堂宝塔鐘楼巍々そうしく
永正年中の兵火ふ罹く灰燼と成後世再興して寺院乃ち民家とも
今の地ふ移る故ふ向井領町と名つく旧地ハ御ふ祓ひ給ひ三國山と
号し又旧地ふ名井あり則基僧正これと堀しめそ故ふ向井寺ともいへ
ふる御ふ祓ふ泉陽ふ向ふゆへ向泉寺と稱ふ建武元年永福
門院命しめて安院向井村ふ於て御ふ祓ふ泉をへしとの令旨あり 旧趾ふ名蹟今ふ存ちり
仁徳天皇陵 舳松領にあり大山陵と称ふ城今存ちる所外堤千二百八十二間
十六間巳尺四畔ふ
小塚之箇所あり
日本紀曰 仁徳天皇八十七年之十月泊内園石津原に於あり
定め給く陵と築しなり日鹿坂中ちり走来りく役民の中に入り忽
仆れ死にける人皆其死をあやしみく痍を探るふ百舌鳥耳の中
ちり出く死去ぬ是奴ふ耳中成虫ふ悉咋割剥ちり於是其所と号く
百舌鳥耳原といふ其是縁と

南宗寺

表門

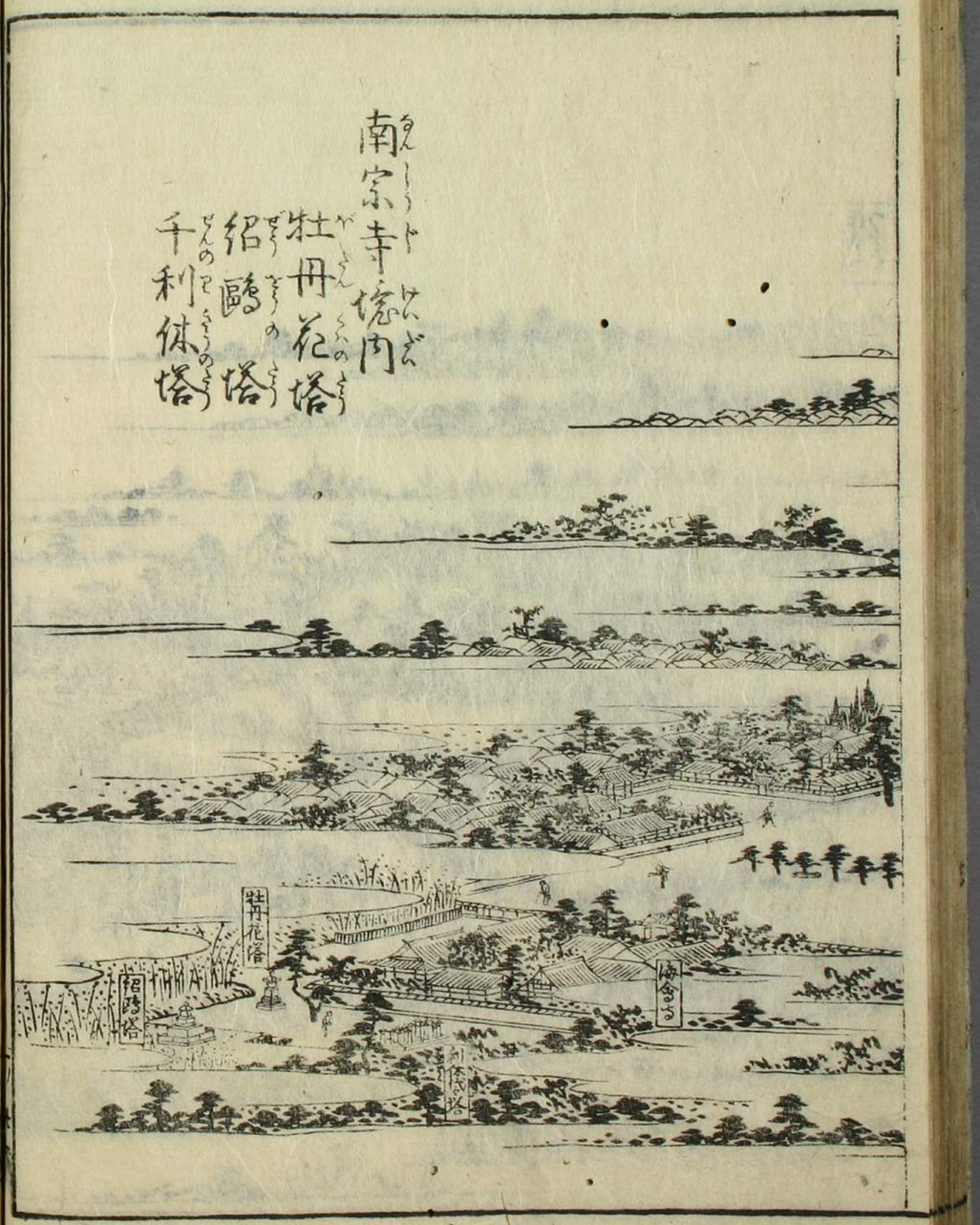


同帝八十七年春正月天皇崩ズ冬十月百舌鳥の陵に葬ル
舊事紀曰 仁德帝八十二年秋八月十五日天皇崩ズ冬十月百舌鳥の野の陵ニ葬ル 古事記曰 仁德帝御年八十三歳丁卯年八月十五日崩ズ
御陵毛受の耳原ニ在 延喜諸陵式曰 百舌鳥耳原陵ハ在ル和泉國大鳥郡 北域東西八町 南北
宮内ニ 仁德天皇ノ在和泉國大鳥郡 北域東西八町 南北
八町 陵戸五烟
反正天皇陵 小 莊我町の東大和道の側ニあり 陵の辺ニ埴井ありて故ノ
埴井陵と稱ス式ニ茂荒道をヨ陵といふ云々 延喜諸陵式ニ反正天皇陵ハ
仮ニ定ル 今存ス所ニ依ル 陵ハ根田ヲ東西二百三十間周迴
柴田と成
歟撰ニ
日本紀曰 元恭帝五年冬十有一月瑞歯別天皇 反正 ヲ耳原の陵に葬ル
舊事紀同上 古事記曰 瑞歯別天皇御歳陸拾歳丁丑年七月崩ズ
耳原の南ニ
御陵在毛受野 延喜諸陵式曰 百舌鳥耳原北陵ハ冊ニ比柴離宮ニ御宇
反正天皇在和泉國大鳥郡 北域東西二町 南北二町 陵戸五烟


佛殿



南宗寺境内
牡丹花塔
紹鷗塔
千利休塔



龍興山南宗寺　南荘薇竜町の東にあり禅宗永源師策開山大徳寺ノ末ニ属ス

中興　澤菴和尚　佛殿　額大雄寶殿　澤菴和尚筆

左脇檀　達磨大師

右脇檀　梵天王　毘沙門天　摩利支天

左檀　将軍家自歸初御代々神牌ヲ安ス

中央　普通國師　右檀　澤菴和尚

山門　額中嘉門　王室和尚筆　方丈　額龍雲　古田織部の姪

客殿　額入澤菴の筆　襖画狩野秀信の筆　浴室　額

喜多見氏の祈る忠勝ノ　景堂　額花林居士の石碑あり　銘澤庵和尚書ス　花林居士ハ堺の豪商　刺史

一閑齊紹鷗塔　南ニあり　石ニ右塔ニ耳を刻ル　惣門　額喜一真ノ

客殿にあり　岩和田湯の似せ書ス　和尚の筆

牡丹花肖柏塔　南ニあるに

先城主ノ　千利休塔　歴代の墓ニ

宝光院　集玄庵　山ノ庵ニ一休岐翁共ニ開基ス　小出吉英彩

臨江庵　徳泉庵　山ノ庵ニ澤巌和尚の開基ス　塔頭　天慶院　玉中庵　四南庵　長慶寺　千深院　移玄庵　李徳庵　臨江庵　中ニあり　清岩院

鎮守八幡宮　猪肉ヲ忌ム　集玄庵ノ鎮守ナリ

俗説曰應神天皇に乳を奉りし人猪に化し恵ミ祈ル神ナリ　猪人殺害ス　今婦人死れ道守氏ノ祖を犯すと　姓氏録ニ和泉國道守朝臣ハ八多朝臣乃宿禰の裔ト日本紀ニもアリ　又一説ニハ此所の地主神ナリ

乳守明神社　猪肉ヲ忌ム　集玄庵ノ鎮守ナリ

猪池　集玄庵ノ南ニあり

津宇明神と称し一社を祀る
霊験新なり
抑當寺ハ初め舳松の傍ふわり普通國師大林和尚と共ニ菴を
結んで居居ニ好般若を支長慶國師ニ謁して頓心致悟し
則弘治二年寺地を宿院の南に移し故考ニ好般若を
功徳場となして建営し龍興山南宗寺と號し則ち長慶
正二位南宗院殿と稱す時長慶ハ泊州飯森城にあり乍ら弘治二年長慶
自検校して當寺ニ諸材を運しむ翌年落成するニ及同二年五月
朝日二万貫の領地を寄附し佛殿法堂禪堂七層塔楼庫裏
山門總門九十二間の田畝百八軒の塔頭衆寮寶蔵方丈小方丈
庫裡浴室大書院小書院對面所新客寮施薬所波御門花月亭
等悉く堂を構へ新造ある同年十一月十日出南宗寺
の供養をなす導師ハ普通國師共外諸山の大徳大檀那ニ好長慶
沸蓼簫中花落ち大居公卿も来臨して花月殿ニ安居し
ふ遠近の貴賤も竹葦の如く湊集して莊嚴無二の霊場となれり
る神廟ニハ祖先ニ好長輝の霊を祀て神像ニハ長輝の甲冑ニ弓箭を
持つる馬上の像ニ作長八寸ニ黄金を以て鑄させ本社ニ安置ニ(旧水雷宗寺
共外社頭ニ十二間の寶蔵を建て長輝の云器ニ蔵む社領ニハ弐千貫ニ
附與せられ毎年五月十二日の例祭ニて叢市あり(已上二好家記旧記大意)厥后天正元年
當寺禪院十刹の位に進ぜられる高僧の大慶ニして壮麗ニ備ハ
業因變じて海となるの如く同二年松永久秀が山賊場に乱入し
當寺の黄金の像ニ作菓て奪ひ去
るニ付堂舎ニ至迄回祿の災ニ罹り社頭一火ニ焼ケ遁去
一宇も殘らず焼失ニ(旧南山居士記)厥后世上紛々として澤庵和尚再建ニ
喜ぶ見忠綺(佛の表曹)小出吉英(岩田俱陸ニ名全高名力ニ勢く家徳ニ
助く故ニ澤菴ニ奉じて中興ニ定む時
永く不朽の梵刹となる元和九年七月十日

台徳大相國の台輿當山に入御し給ふ　両将軍當山の坐亭に
大猷大将軍の台輿當山に入御し給ふ
遊帝給ふ　遠く西南の海面に連る紀の海　阿波淡路の等の小
山　須磨赤石の佳景眼を　ひく逍遥時久移る　入雨来深感
光輝仏塔　むかし　ふかき　寺記 以上

海會寺　南宗寺の塔内ふかき禅宗岩松ふ　潤基廣智國師　禅門七墨宝
号は東福寺ふ属に　　諱は聖一國師

三世の後ふ正嘉元年の春創ふ初ふ二村明神のお門のまふ
旧地に并わりふふ元和の兵火の後ふに移れ
王樓野　南宗寺の側利生庵のあ
樓地の上所國樓地堤ふ和泉國とあるこれ誤ふ
新拾遺　もも　森のそうふみく　ふ　ふ　ふ

藩誌所　雲さそふみ林のふかく吹あひさふ　ふ　ふ　ふ

鉾塚　南農人町ふあり　諺曰　住吉神　韓陣の時　凱陣の時　鉾ふ
ふ　ふ　ふ　

懐乳守頑城廓

男ふた
寝ころん
こころ
蚊帳
のふ

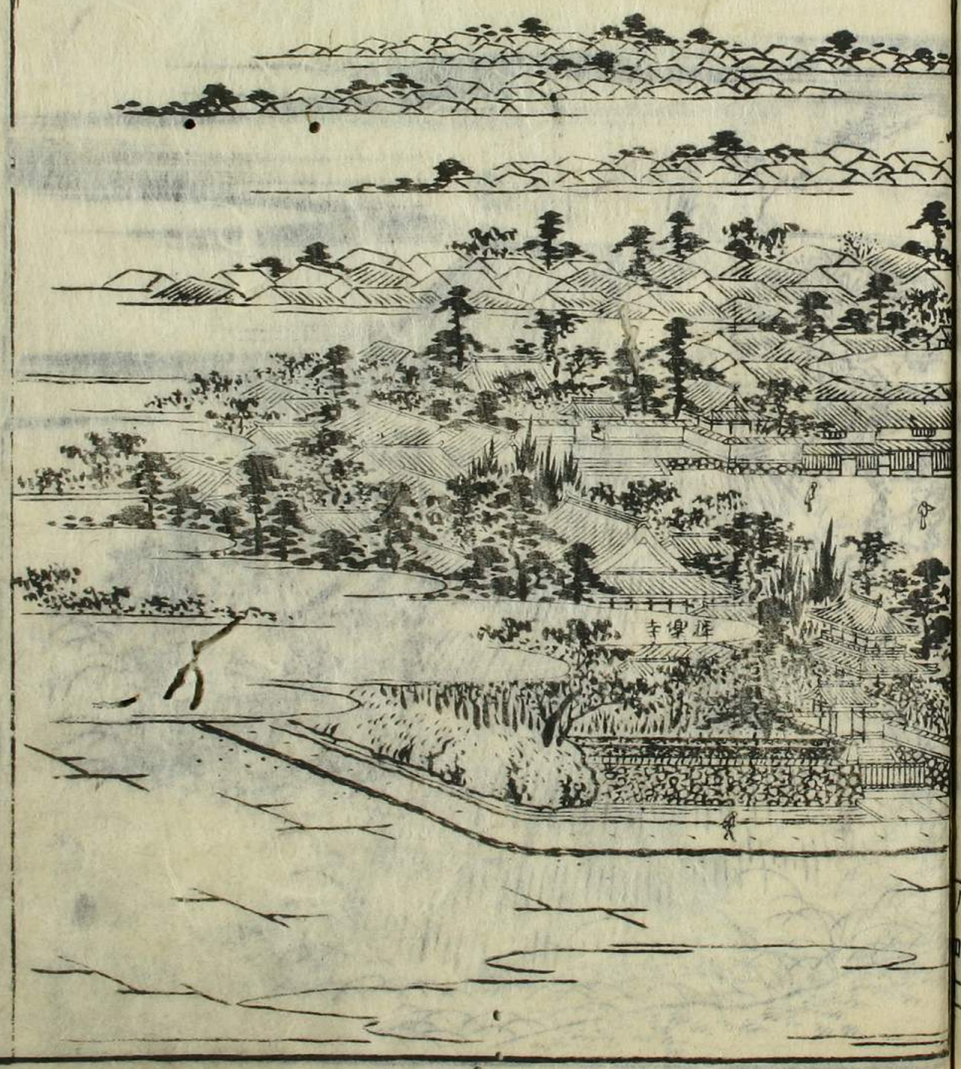
女
咲若

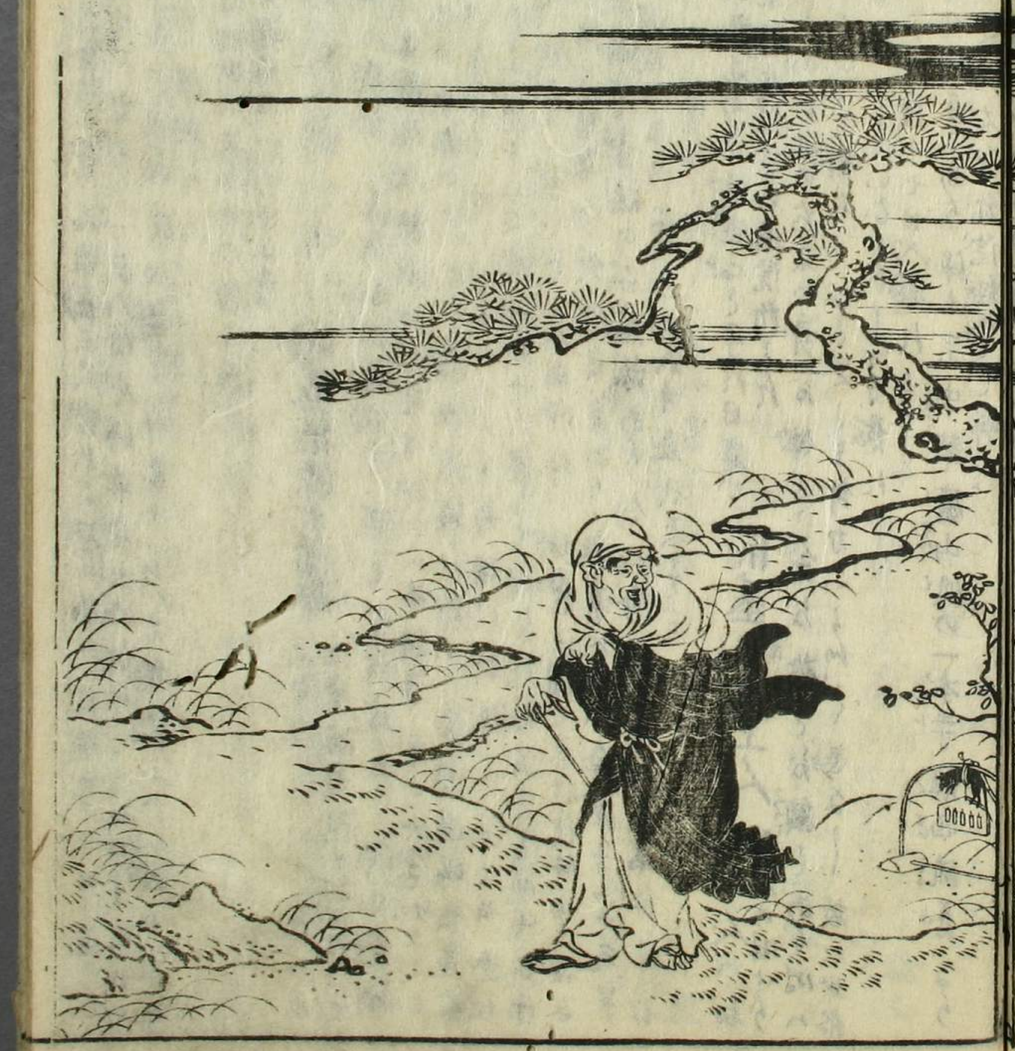
鹽穴寺　新左家町の東にあり　本尊十一面観世音　長久二年和州泊瀬寺の観音の御像を模して作れり　元明帝の御宇和銅年中

本尊海中より上りたまふ故に名とす　其由詳ならず　舊記に云く昔聖徳太子勅して勿至恩寺を建立せしむ　其時此地に一堂を建立して観音を安置す　其後堂舎破壊して礎のみ存せり　天正年中に至り再興の志ありしかども果さず　慶長年中に至り住僧希興再興の願を発し　如意輪の像を造立して本尊とす　其後又破壊に及ぶ　住僧宥盛再興の願を発し　本尊を修理し　堂舎を造営す　今の堂宇是なり　本尊は海中より上りたまふ故に　菩薩形にて立たまへり　其長三尺三寸　左の手に蓮華を持ち　右の手を垂れて与願の印を結び　岩上に立たまへり　其岩は海中にあり　満潮の時は岩没して見えず　干潮の時は岩現ず　故に今に至るまで　参詣の人多く海中に入りて　岩の辺にて潮を汲み　或は海藻を採りて帰る　又参詣の人船にて来る時は　必ず風波なし　参詣の人船にて来る時は　必ず風波なし　参詣の人船にて来る時は　必ず風波なし　

神功皇后鉾塚

禅楽寺
大心和尚
ちゝ住し
の八禅刹と







玄中記曰
百歳の狐い
宮女となる
又へんれんと
ふれの白蔵主
狸の
亀と教化を
立ね言まる
洛の
少林寺
通心廟の
竹を伐く
枝をも
翠ひとそ
聞へ

荒神社　南松屋町ふあり石像長二尺八寸　脇立二尺四寸　天原ハ播州濱濱寺の鎮守の像と
背面ふ銘あり一乱の後今此地ふ移す　三村の
社内ふ安置ハ其後ふ遷ると　毎年十一月火焼ふハ二の神の社頂
奉納　しく法延ハ

源光寺　寺地町の東ふあり　浄土真宗
本願寺派門徒法末寺

本尊阿弥陀佛　立像長二尺余　開基祐源大僧都　大聖院と号ハ四天
忍性律師の徒弟ふ高津舩松山穴寺　親鸞堂ハ建立ハ　王寺勝曼院の別當ふて
東福寺の海鳳院師錬禅師の　　　

画史等ニ賜リヌト云ヘリ五臺山ニ攀ヂ登ツテ文殊ノ記別ヲ蒙ツテ郤テ二十七州ヲ
巡礼シ奈良ノ功滿ツテ後醍醐帝元亨元年ニ歸朝シ渡唐求法ノ
勅命奏達シ終ツテ敷感斜ナラズ本邦ノ盧山ニ模シテ元年泉州大鳥郡ニ佛刹ヲ
ヤシ宸翰ノ盧山ノ額ヲ賜ツテ正中元年ニ光明帝延元二年ニ
旭蓮社ヲ始祖ト號シ一行ヲ奉朝蓮社ノ名ヲ創ム
貳千六百貫ノ祖税ヲ賜ハル康永元年天下大ニ疫死ス帝人民ヲ
憐ムノ餘リ澄禅ニ詔シテ下リ給ヒテ昇圓頓菩薩戒ヲ授ケ疫病止ム
氏尚喜悦ノ眉ヲ開ク其ノ圓頓菩薩ト綸言ヲ
賜ハル其後南朝後村上帝宸翰ヲ以テ澄圓ヲ勅シテ蓮教ヲ傳ヘ光戒師
ト号シ圓頓菩薩戒ヲ稟承シ歴代ノ第一衣ヲ
大阿弥陀経ヲ賜ル而后崇光帝貞和元年津ニ教ヲ弘メ
小乗ヲ捨テ大ニ謂ヒヌル編書世ニリ於是松風論十巻ヲ述作シテ大ニ
深教頓大ノ旨ヲ著ハス開山ノ徳輝日々ニ彰ハレ門末ノ弘通覚ニ
新ナリ大伽藍殿堂門蕪三十八宇塔頭僧坊二十餘舎ヲ及ベテ覚ニ
鎮西流白旗ノ正統ヲ法孫ヲ授與シ應安五年七月廿七日上人
忽焉トシテ遷化ス方ニ今其日ヲ署シ
寂日トシテ迫世ニ怨上人寺内ヲ一宇ヲ建ツ永生院ト号シ
常ニ念佛怠ラズ

潮風呂　旭蓮社の領内大町の西ニアリ持参ス

潮水井　同寺ニアリ持参ス

石像　同寺ニアリ持参ス

貴　ヲ入ル人ハ必ズ諸人浴室ニ入ル事ヲ禁ズ

一雙　ヲ賜ル

寺寶　法親王集云　和泉國新家ト云ヘル所ニ前ニ天ヲ信ジ靈夢ニ依テ
堂ヲ建テ妙徳ト号ス

潮風呂　旭蓮社ノ領内大町ノ西ニアリ持参ス

潮水井　同寺ニアリ持参ス

石像　同寺ニアリ持参ス

貴　ヲ入ル人ハ必ズ諸人浴室ニ入ル事ヲ禁ズ

一雙　ヲ賜ル

寺寶　法親王集云　和泉國新家ト云ヘル所ニ前ニ天ヲ信ジ靈夢ニ依テ
堂ヲ建テ妙徳ト号ス

源中納言雅頼のきやうをかきてたてまつりけるに

おろかなるわれをも救ふもろこしのみしるしをぞたのむべらなる

おろかなるわれをも救ふもろこしのみしるしをぞたのむべらなる

雅頼

おとのえのたなそこの風ふちるはいかなるたねのなごりなるらん

おとのえのたなそこの風ふちるはいかなるたねのなごりなるらん

守覚法親王

月数百一おなのをあらはしてかりそめならぬ名ぞとぞきく

月数百一おなのをあらはしてかりそめならぬ名ぞとぞきく

仝

むり（ママ）ける（ママ）ゆへ（ママ）後世（ママ）執（ママ）奏（ママ）家村（ママ）と（ママ）後世（ママ）執（ママ）奏（ママ）家（ママ）五町（ママ）南（ママ）小（ママ）有（ママ）塩風（ママ）呂（ママ）
執て足利将軍家已来浴室の條目（ママ）賜（ママ）諸役免除（ママ）一（ママ）紫
（ママ）は（ママ）禅（ママ）秀吉（ママ）公（ママ）疾病（ママ）不日（ママ）小（ママ）平（ママ）愈（ママ）一（ママ）（ママ）塩（ママ）題
刺史石田（ママ）治（ママ）政（ママ）に（ママ）依（ママ）て（ママ）制（ママ）止（ママ）と（ママ）賜（ママ）へ（ママ）其（ママ）文（ママ）小（ママ）曰（ママ）

當寺境内寄宿（ママ）并（ママ）塩風呂諸役之事、

令免除畢（ママ）弥（ママ）不（ママ）可（ママ）有（ママ）違（ママ）背（ママ）者（ママ）也

文禄二年（ママ）後九月十七日　秀吉　御判

慈光寺　中之町の東ふあり　浄土真宗
顕本寺　宿院の東ふあり　日蓮宗
長谷寺　宿院の東ふあり　真言宗
開山徳道上人　大和勝宝元年中　聖武帝の勅（ママ）を受（ママ）け（ママ）て（ママ）建立（ママ）す（ママ）其後（ママ）上人（ママ）入（ママ）定（ママ）の（ママ）地（ママ）
開基圓二房　文明年中の草創（ママ）　圓二房八左馬頭
藤正勝の男大弥門正右（ママ）
開基日海上人　文明十二年の建立（ママ）　天文元年六月廿日（ママ）二好（ママ）筑前守元長（ママ）
開基圓観世者　弾首（ママ）熹（ママ）三尾の松木（ママ）成
開山観聖　長谷寺　大和勝宝元年中　聖武帝の勅（ママ）を受（ママ）け（ママ）て（ママ）建立（ママ）す（ママ）其後（ママ）上人（ママ）入（ママ）定（ママ）の（ママ）地（ママ）
祥雲寺　宿院の東ふあり　浄宗　佛殿聖観音　坐像　長二尺許
開基澤菴和尚　攅那（ママ）谷氏正安　寛永二年の草創
昭堂　開山沢庵の像（ママ）　左遠（ママ）大師　右澤菴和尚　額ハ（ママ）慈眼（ママ）堂（ママ）ト（ママ）書（ママ）ニ（ママ）

釋（ママ）尊（ママ）　額澤菴（ママ）筆
鉢鼡（ママ）橋　額ハ天倫和尚の筆
雲関　額一字　中峯（ママ）黄元霖（ママ）の筆
五葉松　方丈の床（ママ）庫（ママ）裏（ママ）ふあり　笠五蓋を風流に（ママ）屈（ママ）
藓鉄　南の庫（ママ）裏（ママ）ふあり　幅十間程に（ママ）
奇観　當寺落成の日　勅使（ママ）有（ママ）之（ママ）

近衛太閤（ママ）基照公（ママ）筆　方丈　額ハ天倫和尚の筆
小方丈　御寝（ママ）間　中華（ママ）筆献（ママ）額ハ天倫和尚の筆
鐘楼　額惶（ママ）世楼　庫裡　額香積（ママ）界　天祐和尚の筆

方丈左右床（ママ）張（ママ）付（ママ）六七間許（ママ）言（ママ）を丈八尺
将来（ママ）と（ママ）云（ママ）人（ママ）様（ママ）の投一（ママ）餘（ママ）
勅（ママ）使（ママ）ハ（ママ）五位下土佐守石河（ママ）肠正
おの（ママ）れ（ママ）ハ（ママ）一首（ママ）ハ（ママ）賜（ママ）ハ（ママ）ら（ママ）ん（ママ）　肠正

おの（ママ）れ（ママ）ハ（ママ）家（ママ）と（ママ）も（ママ）し（ママ）く（ママ）座（ママ）の面（ママ）さ（ママ）れ（ママ）苦（ママ）む（ママ）を（ママ）ハ（ママ）な（ママ）ん（ママ）

澤菴和尚和韻

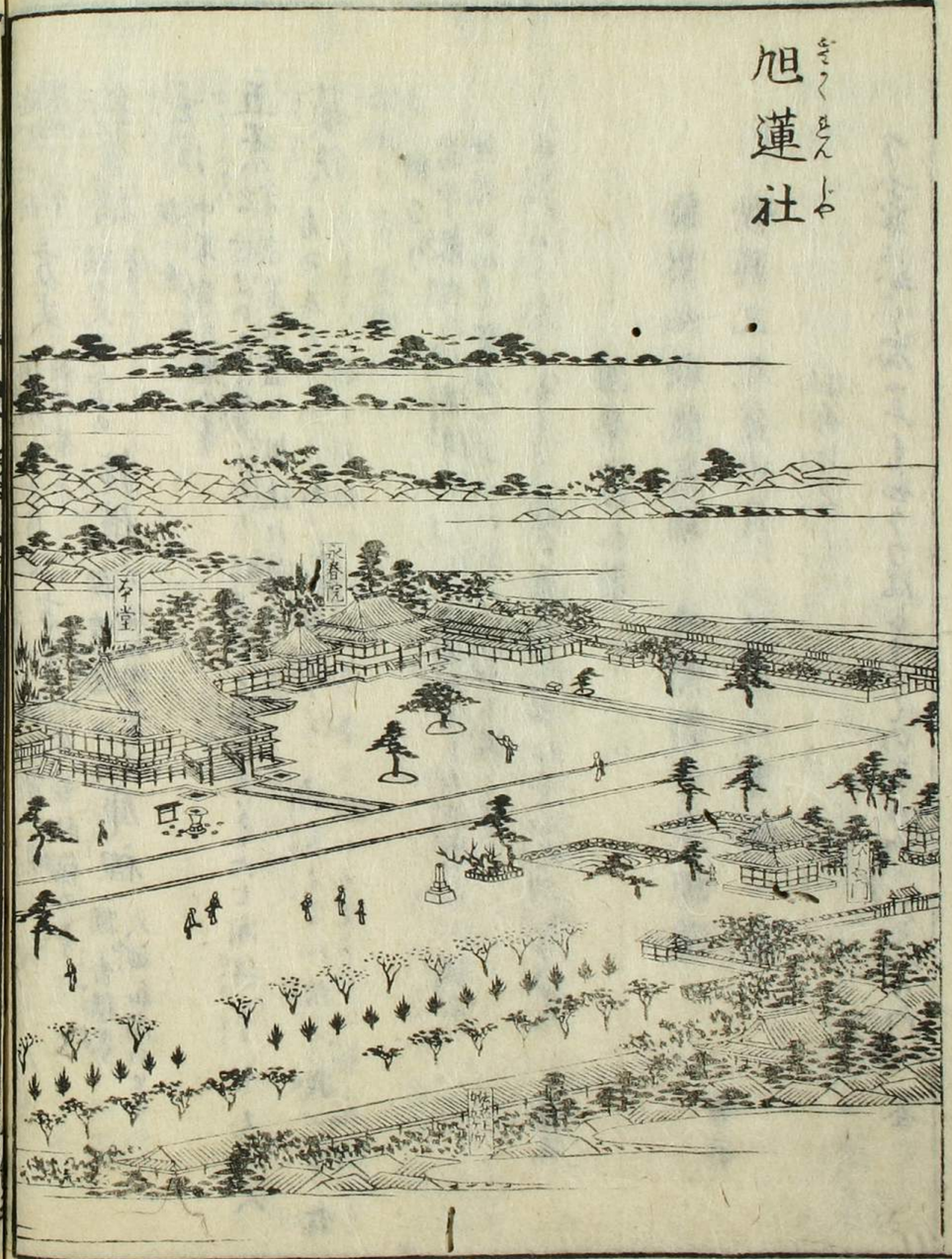
詠出和歌敷嶌跡　吟聞新寺暮樓鐘
秋其三五夜中月　花又八重猶一重　澤菴

禾（ママ）ふ（ママ）のくし（ママ）

々（ママ）士（ママ）ハ（ママ）おく（ママ）家（ママ）と（ママ）も（ママ）し（ママ）く（ママ）座（ママ）さ（ママ）れ（ママ）ほ（ママ）をとゝ（ママ）のゑ（ママ）ふ（ママ）みうらをとゝ（ママ）のゑ（ママ）ふ（ママ）　全

旭蓮社（きょくれんしゃ）





祥雲寺





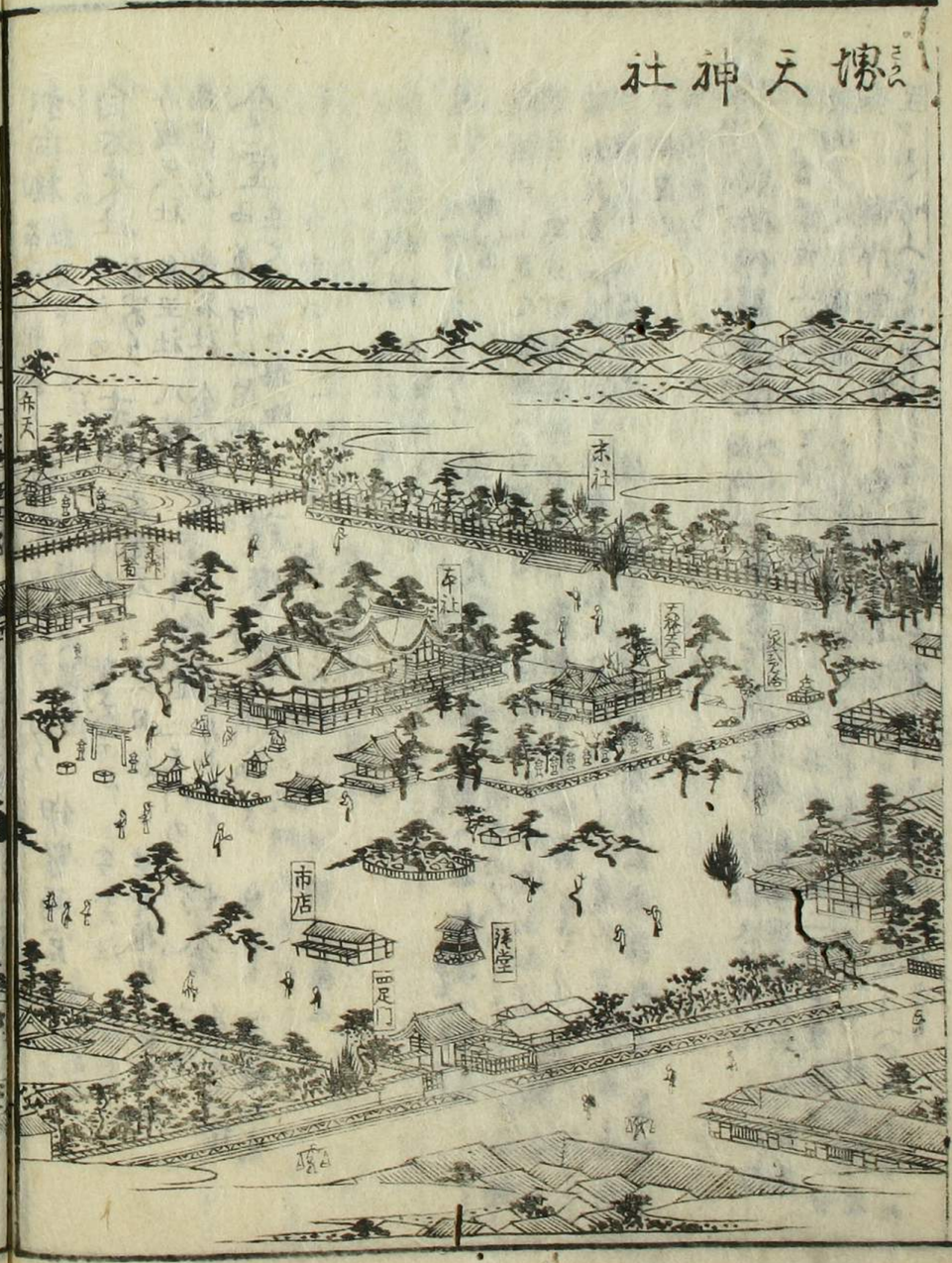
了覺寺　甲斐町の東ふのり淨土宗光明山と号し洛東黒谷光明寺の別院なり故ふ尚ほも亦黒谷と
本尊阿弥陀佛　基ハ和州當麻寺の智秀大德感夢の威一尺六寸本尊に別ち當麻寺の時ふ當麻の傍倡競ひ來りて棄ひ去んとせしを智秀大德呼留めて曰ふ汝自ら死して當麻の傍徒等に感恩報謝せざるや自ら死して當麻の傍徒等に感恩報謝せざるや悲嘆の涙を流し本尊を七日七夜念佛して水鏡に法然上人黒谷の池乃至親町院の帝
寄附の一枚起證文を添て御寄附あらんことを願ひ奉りしに永祿年中山寺に來向基ハ
天正年中に再興に
占辻　湯屋町六町目の角大小路の衢を俗に辻と云ふ昔し此邊に安倍晴明住せし故ふ此の神符なるに依て盛んに賣弘めしより安倍晴明の辻と呼ぶ今に於ても然り
亟蛭子　蛭子町の石像の恵比須ハ今ハ市店の守護神と崇敬し遠近より參詣多し
戎鴻　大小路の西高津に於く茶店鮮食店ありし由緒ふ詳ならず
蛭子社　戎鴻ふあり寛文四年八月波濤森茂しく一ツの龜出る長四尺二寸幅四尺同六年十二月嬰兒の石像ふ海中ふ成同十一月
樂し石ふ登りて一周の後ふ再ひ財天と崇めし像ふ安置して
親吉堂　本尊ハ聖德太子の御作にして安置
極樂寺　湯屋町の東ふあり淨土宗にて本尊阿弥陀佛　坐像八尺初の本尊ハ山基の
川基俤西某創の由緒ふ詳ならず
天神社　戎町の東ふあり　威德山常樂寺と號し天台宗
聖廟の御神容ハ菅亟相筑紫大宰府ふ謫遷おわしのとき自
神彫ふ刻しもの七天神の其一ツ延喜年中高津の海濱より

悩ふ石に鐵く字の字とし久大師大恩天ふ勸請しもの由緒ふ
戎鴻　大小路の西高津に於く茶店鮮食店ありし由緒ふ詳ならず
蛭子社　戎鴻ふあり寛文四年八月波濤森茂しく一ツの龜出る長四尺二寸幅四尺同六年十二月嬰兒の石像ふ海中ふ成同十一月
樂し石ふ登りて一周の後ふ再ひ財天と崇めし像ふ安置して
親吉堂　本尊ハ聖德太子の御作にして安置
極樂寺　湯屋町の東ふあり淨土宗にて本尊阿弥陀佛　坐像八尺初の本尊ハ山基の
川基俤西某創の由緒ふ詳ならず
天神社　戎町の東ふあり　威德山常樂寺と號し天台宗
聖廟の御神容ハ菅亟相筑紫大宰府ふ謫遷おわしのとき自
神彫ふ刻しもの七天神の其一ツ延喜年中高津の海濱より

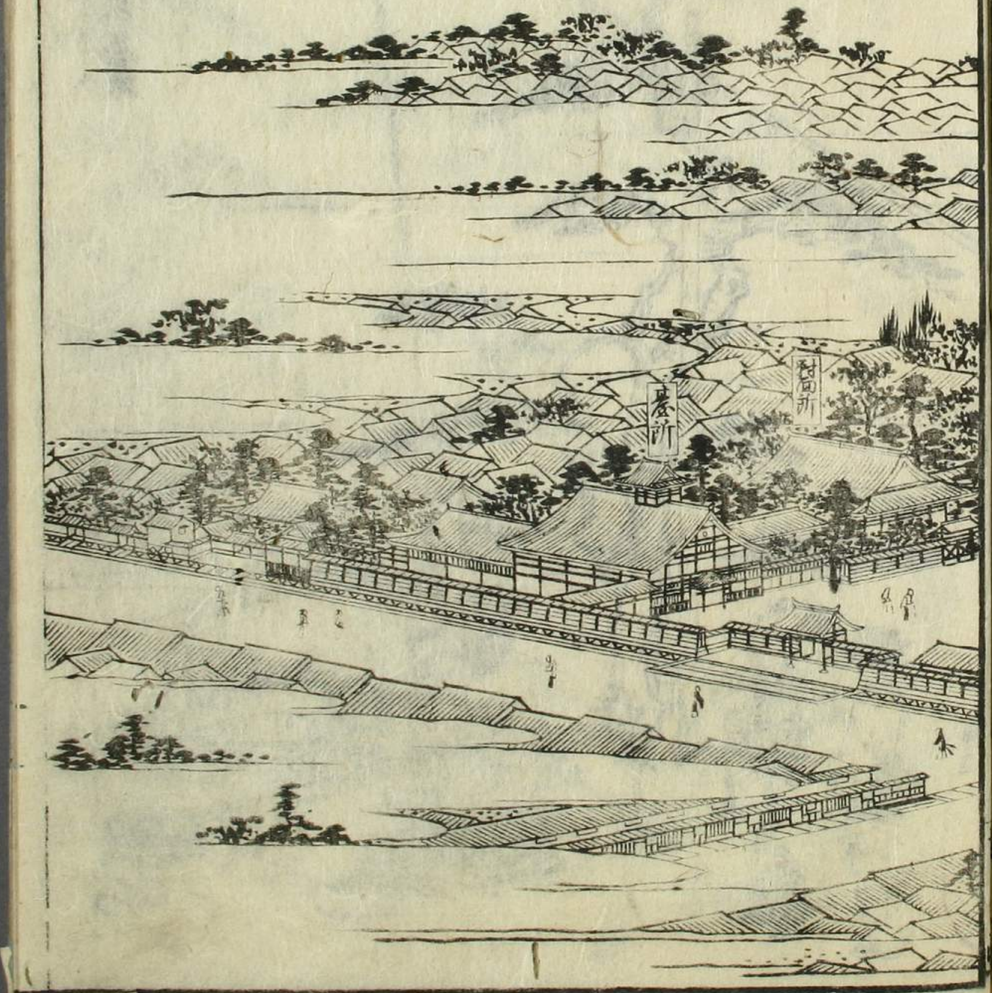
上下せり昌民間小霊祠なり営く慶民陽仰ぐ不
一條院御宇長徳二年丙申正月十八日寅の一天に瑞あり
寶殿おの〳〵翔けり〳〵南社紅梅の樹頽ぶ止り
貴賤群集〳〵く奇特の思ひなす
神殿巍々〳〵く利生霊験新なる和一栄の兵燹に罹く烏有
とならせ給ひて神剣八民家のまもりつたへ
して造建あり〳〵く古のまゝく御鎮坐〳〵奉へ
或曰南社いむ〳〵塩穴郷澤村にあり故に塩穴天神と称ふ中古北荘今の
訪小勧請に文明二年菅原為長卿記云和泉國毛須深井 草部 土師
向井 塩穴 高石 菅家の祖神天穂日命已来の奮領之 為長卿真蹟今菅氏五條殿にあり
塩穴天神宮ハ昂天穂日命の神廟に後世菅神を併祭りたてまつる
御鎮座ふ〳〵まるものおゝんなり
本社天満宮 相殿春日大明神 遠宮の本地佛 拝殿 神楽所 連歌所 毎月廿五日
十一面観世音 行向ふあり

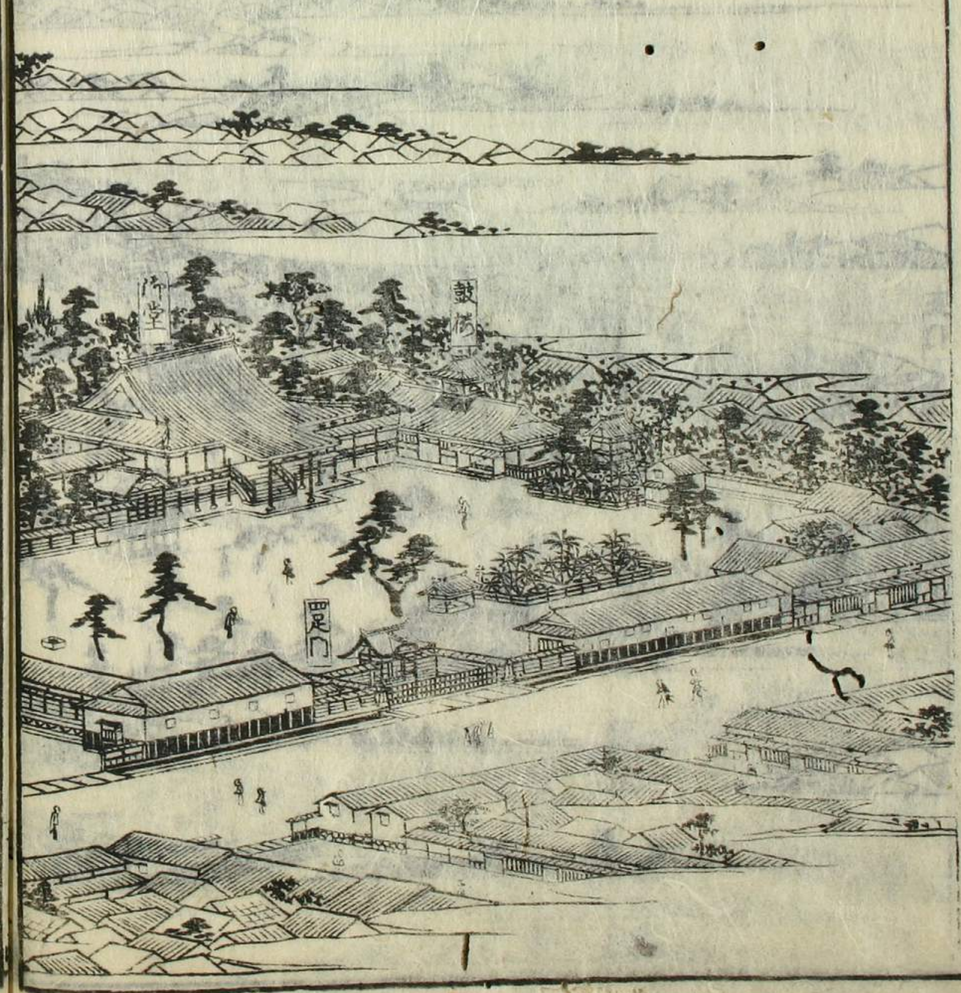
菅天神社



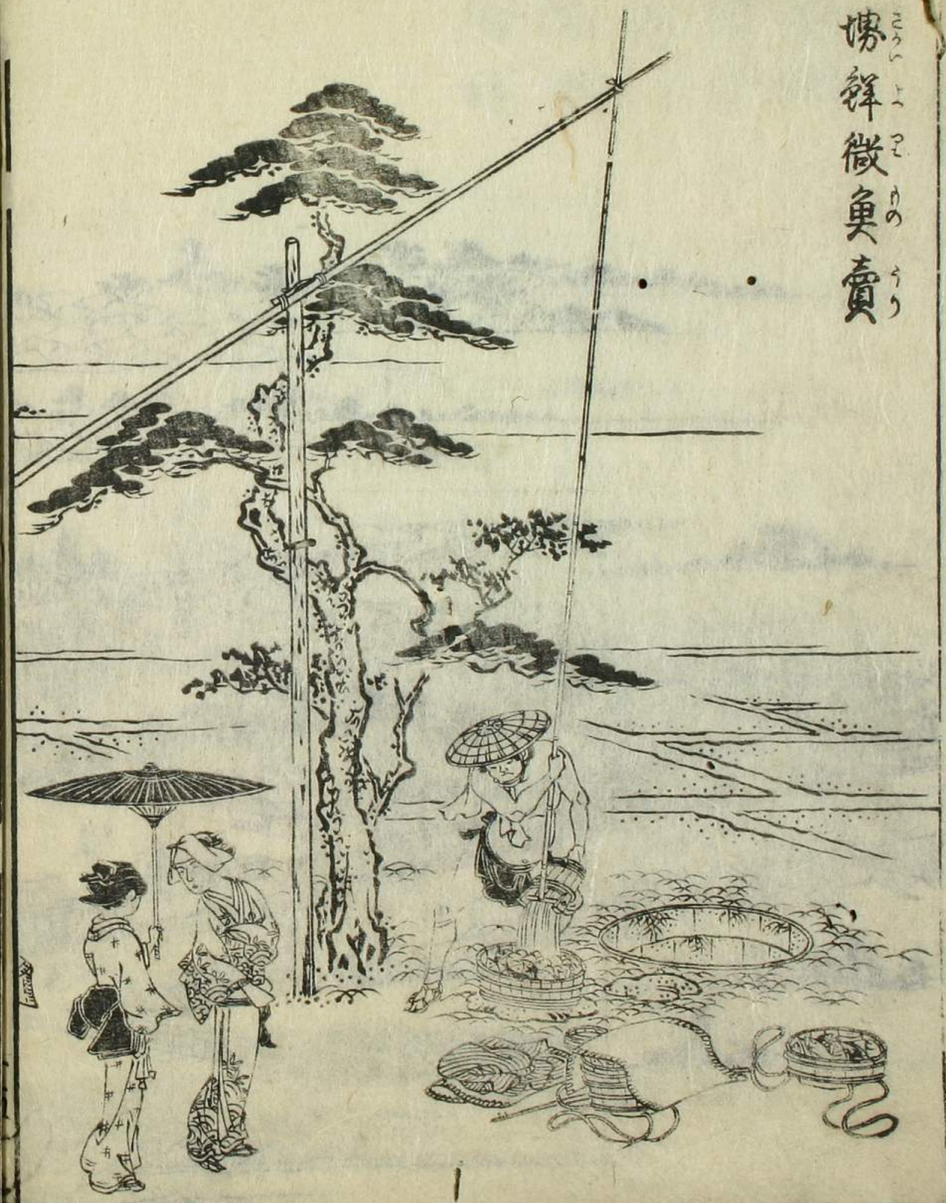


東乾
頓寺ト
御門
跡場
御坊





塩鮮微奥賣





賀日塩ふり鮮魚の微あり公よう賣ろく町くを賣あるく其聲えるくいさたよう潮ふく蒸公臘魚とふく蒸公赤俗ふ多く賣る佳美之

和泉名所圖會卷之一 終

微鮮奥賣 昆の日奥木の濱ぐりあまたあつめ濕遠の町
賣ありく其ぞのとき〳〵の時候の立派の汗袖を着
粧潔なるを上ケ鮮をとゝのへ〳〵売舞なつゝ
あるべし